

門真市

西三荘遺跡 II

パナソニックホールディングス株式会社技術部門西門真新棟計画に伴う発掘調査報告書

2023年8月

門真市

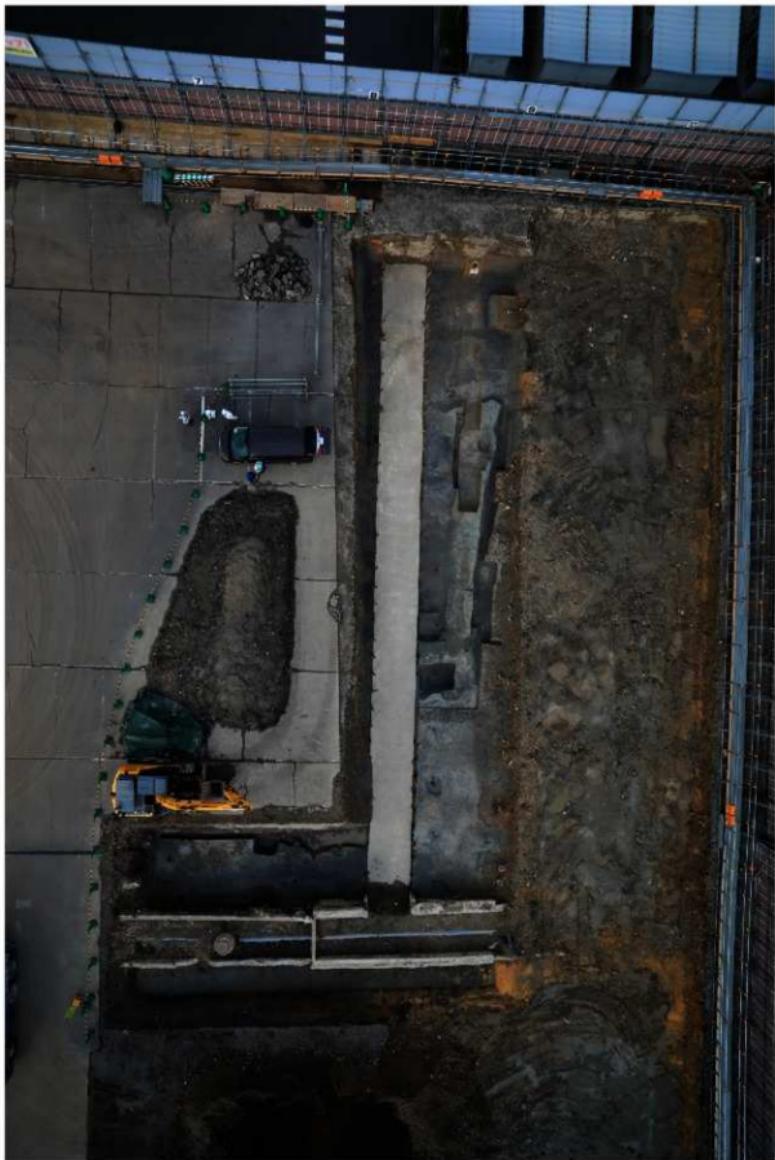
門真市

西三荘遺跡 II

パナソニックホールディングス株式会社技術部門西門真新棟計画に伴う発掘調査報告書

2023年8月

門真市



西三莊遺跡調查區全景



写真1 SX1 上層 土器出土状況（南西から）



写真2 SX1 下層 土器出土状況（南西から）



写真3 代表的な出土遺物



写真 4 SX1 出土木製品（下は赤外線画像）

序 文

わたしたちの住む門真市域の大部分は、かつての河内潟の北岸に位置する低湿地で、蓮根やクワイが広く栽培されるなど、低地の環境を活かした豊かな水郷地帯でした。

こうした水郷農村の景観は、昭和8（1933）年に松下電器製作所が本社・工場を門真地区に移転したのをはじめ、戦後の高度経済成長期を経て、産業都市として大きく様変わりしました。この間、工場の進出や住宅開発などに伴う発掘調査が行われ、これまで判然としなかった古い時代の歴史についても、徐々に明らかになってきました。

このたび完成した本報告書は、令和3（2021）年度に引き続いて、令和4（2022）年10月から11月にかけて京阪電車西三荘駅前に所在するパナソニックホールディングス株式会社敷地内で実施した西三荘遺跡の発掘調査報告書です。

当該遺跡は、市内で現在見つかっている中で、最も古い縄文土器が出土し、慶長元（1596）年に豊臣秀吉の伏見城が倒壊したといわれる慶長大地震による液状化跡が確認されるなど全国的にも知名度が高く、本市の歴史を考える上で重要な遺跡であります。

今回の調査では、平安時代後期から鎌倉時代（11世紀から13世紀）に作られた多くの土器や、文字が書かれた木器などが出土し、中世の門真が大いに栄えた地域であったことが明らかになりました。

本書の刊行が発掘調査の報告というにとどまらず、郷土の歴史や文化をはじめ、広く文化財保護へのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、このたびの発掘調査に際し、深いご理解と多大なご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和5（2023）年8月

門真市長 宮本 一孝

例　言

- ・本書は、大阪府門真市大字門真 1006 番地で計画された、パナソニックホールディングス株式会社による技術部門西門真新棟計画に伴い実施した、埋蔵文化財の発掘調査報告書である。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である西三莊遺跡に含まれる。
- ・現地調査・整理作業及び報告書刊行に至るまで、事業者であるパナソニックホールディングス株式会社と、工事主体者及び施工責任者である株式会社竹中工務店の協力を得た。
- ・現地調査は、令和 4（2022）年 10 月 5 日から同年 11 月 25 日まで行った。整理作業及び報告書作成は、令和 5（2023）年 4 月 1 日に開始し、同年 8 月 10 日の報告書刊行をもって終了した。
- ・本調査は、門真市が主体となって実施し、事業主より委託を受けた株式会社島田組の協力を得た。現地調査から報告書刊行まで、重金 誠氏（株式会社島田組）に多大なる協力を賜った。本発掘調査時の調査体制は下記のとおりである。

門真市長	宮本 一孝
門真市副市長	下治 正和
門真市民文化部長	水野 知加子
門真市民文化部次長	山 敬史
門真市民文化部生涯学習課長	清水 順子
門真市民文化部生涯学習課長補佐	森井 康喜（令和 4 年度）
同	藤井 将臣（令和 5 年度）
門真市民文化部生涯学習課主任	常松 隆嗣
門真市民文化部生涯学習課係員	淺井 達也（発掘調査担当）

- ・遺物の水洗・注記・接合・復元は、株式会社島田組が実施した。
- ・遺物の実測・トレース及び遺構図トレースは、株式会社島田組が実施した。
- ・本書に掲載の遺構写真は浅井及び株式会社島田組が撮影し、遺物写真は株式会社島田組が撮影した。
- ・本書の執筆は、第 3 章第 2 節 3 出土遺物は重金、その他の部分と編集は浅井が担当した。
- ・本調査において得られた諸資料・出土遺物は、門真市が保管・管理している。
- ・現地調査から報告書の作成に至るまで、下記の方々からご指導、ご協力を賜った。記して感謝申しあげます（順不同、敬称略）。

宇治原 靖泰（八幡市教育委員会）
古川 登（越前町織田文化歴史館）
魚島 純一（奈良大学文学部文化財学科教授）
矢内 一磨（堺市博物館学芸課）

凡 例

- ・本文中ならびに挿図中における標高は、東京湾平均海面(T. P)を用いた。また、遺構全体図中の座標値は、平面直角座標系(第VI系)に基づき、作図段階で設定したものである。
- ・本書に掲載の遺構番号は、整理作業時に掲載遺構として抽出したもののみについて、遺構種別ごとに通し番号を付し、それ以外のものは調査時の略号を記している(例:土坑1、溝1など)。
- ・遺構図における線種・線号は以下の通りである。
 - 調査区(実線・0.4mm)、遺構の上端(実線・0.3mm)、
 - 遺構の中端(実線・0.2mm)、遺構の下端(実線・0.1mm)、
 - 搅乱(実線・0.1mm)、復元線・隠れ線(破線)
- ・遺物実測図中の線種は、外形線・中心線・区画線は実線、ナデによる稜線は破線、ケズリによる稜線は実線で示した。また、須恵器の断面は黒塗り、黒色土器・瓦器は網カケで表現している。
- ・本文中における遺物の器種名は、「壺」「甕」などの簡易な表現とし、「○○形土器」という表現は用いていない。
- ・土層の色調は、農林水産省農林技術会議事務局・財团法人日本色彩研究所『新版標準土色帖』(1989年版)に準じた。

目 次

巻頭図版

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査地周辺の既往調査	1
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査成果	9
第1節 基本層序	9
第2節 遺構と遺物	9
第4章 まとめ	51

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 門真市位置図（国土地理院地図に加筆して作成）	2
第2図 事業範囲と調査区位置図	3
第3図 調査地周辺地形図（国土地理院地図に加筆して作成）	4
第4図 周辺の遺跡地図	7
第5図 遺構配置図	10
第6図 西壁土層断面図	11
第7図 東壁土層断面図	12
第8図 落ち込み遺構（SX1）・溝1（SD6）・土坑4（SK8）平面図	13
第9図 落ち込み遺構（SX1）・溝1（SD6）・土坑4（SK8）断面図	14
第10図 遺物出土状況図（1）	15
第11図 遺物出土状況図（2）	16
第12図 土坑1（SK3）平・断面図	17
第13図 土坑2（SK4）平・断面図	18
第14図 土坑3（SK7）平・断面図	19
第15図 土坑5（SK9）平・断面図	20
第16図 落ち込み遺構（SX1）出土遺物（1）	42
第17図 落ち込み遺構（SX1）出土遺物（2）	43
第18図 落ち込み遺構（SX1）出土遺物（3）	44
第19図 落ち込み遺構（SX1）出土遺物（4）	45
第20図 落ち込み遺構（SX1）出土遺物（5）	46
第21図 落ち込み遺構（SX1）出土遺物（6）	47
第22図 土坑1（SK3）・土坑3（SK7）出土遺物	48
第23図 土坑2（SK4）・土坑4（SK8）・土坑5（SK9）・自然流路（NR2・NR5）・溝1（SD6）出土遺物	49
第24図 落ち込み遺構（SX1）・土坑4（SK8）出土木製品	50

表目次

表1 周辺の遺跡一覧	8
表2 遺物観察表（1）	53
表3 遺物観察表（2）	54
表4 遺物観察表（3）	55
表5 遺物観察表（4）	56
表6 遺物観察表（5）	57
表7 遺物観察表（6）	58
表8 遺物観察表（7）	59
表9 遺物観察表（8）	60
表10 遺物観察表（9）	61
表11 遺物観察表（10）	62

図版目次

卷頭図版 1	図版 7
西三荘遺跡調査区全景	出土遺物写真 2
卷頭図版 2	図版 8
写真 1 SX1 上層 土器出土状況（南西から）	出土遺物写真 3
写真 2 SX1 下層 土器出土状況（南西から）	図版 9
卷頭図版 3	出土遺物写真 4
写真 3 代表的な出土遺物	図版 10
卷頭図版 4	出土遺物写真 5
写真 4 SX1 出土木製品（下は赤外線画像）	図版 11
写真図版表紙	出土遺物写真 6
調査地遠景（東から）	図版 12
図版 1	出土遺物写真 7
写真 1 西壁土層断面（北東から）	図版 13
写真 2 SX1 上層 土器出土状況（西から）	出土遺物写真 8
写真 3 SX1 上層 土器出土状況（南から）	図版 14
写真 4 SX1 上層 土器出土状況（南西から）	出土遺物写真 9
写真 5 SX1 上層 土器出土状況（南東から）	図版 15
図版 2	出土遺物写真 10
写真 6 SX1 下層 土器出土状況（南西から）	図版 16
写真 7 SX1 下層 土器出土状況（南西から）	出土遺物写真 11
写真 8 SX1 下層 土器出土状況（南西から）	図版 17
写真 9 SD6 完掘状況（南から）	出土遺物写真 12
写真 10 SK3 風倒木痕検出状況（東から）	図版 18
写真 11 SK3 完掘状況（北東から）	出土遺物写真 13
写真 12 SK4 土層断面（西から）	図版 19
写真 13 SK4 検出状況（西から）	出土遺物写真 14
図版 3	図版 20
写真 14 SK4 完掘状況（西から）	出土遺物写真 15
写真 15 SK7 土層断面（南から）	写真図版 21
写真 16 SK7 土器出土状況（西から）	出土遺物写真 16
写真 17 SK7 下層 土器出土状況（南西から）	図版 22
写真 18 SK7 完掘状況（南から）	出土遺物写真 17
写真 19 SK8 完掘状況（南から）	図版 23
写真 20 SK9 土層断面（南から）	出土遺物写真 18
写真 21 SK9 完掘状況（南から）	図版 24
写真図版 4	出土遺物写真 19
写真 22 NR2 噴砂痕検出状況（東から）	図版 25
写真 23 NR2 噴砂痕検出状況（北から）	出土遺物写真 20
写真 24 NR2 完掘状況（北から）	図版 26
写真 25 NR2 断面（西から）	出土遺物写真 21
写真 26 調査状況	
写真図版 5	
写真 27 遺構完掘状況（北から）	
写真 28 調査区全景（南から）	
図版 6	
出土遺物写真 1	

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

令和4（2022）年度に、門真市大字門真1006番地の京阪電車西三荘駅北側に近接するパナソニックホールディングス株式会社敷地内において、技術部門西門新棟建設工事が計画され、旧建築物の解体撤去及び新築工事が開始されることになった。

この事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「西三荘遺跡」の範囲内に該当していたため、開発者と事前協議を行い、遺構・遺物の有無について確認調査が必要である旨を回答した。今回の調査では、開発区域の面積が5,763m²と広大なものである。しかし、旧建築物の基礎が大きく広がっていたことから、確認調査は極めて限定的な区域にならざるを得なかった。

令和4年4月、事業者より文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘届が提出され、門真市は要発掘調査の意見を添えて大阪府教育委員会（以下「府教委」）へ進達した（門市生第3053号）。これに対して府教委は門真市に発掘調査の実施を通知した（教文第1-670号）。門真市は府教委に確認調査について、文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を行った（門市生第3170号）。

門真市は令和4年7月12日から18日まで、開発区域内の18箇所で確認調査を実施した。調査の結果、敷地内の大部分は旧建築物の基礎工事により搅乱をうけているが、調査地北東端の敷地内道路部分から土坑を検出、中世の土師器が出土することを確認した。このため、工事計画の見直しや工法の変更ができず遺跡の破壊を回避できない範囲に対して、本発掘調査を実施することになった。

以上を経て、改めて文化財保護法第99条に基づく本発掘調査が10月から開始され、門真市は直ちに埋蔵文化財発掘調査の報告を行った

（門市生第3253号）。

調査期間は令和4年10月5日から開始し、11月25日に現地調査を終了した。調査面積は500m²である。

第2節 調査地周辺の既往調査

西三荘遺跡は、平成元（1989）年1月、門真市大字門真の松下電工株式会社（当時）第二別館建設に伴い発見された。遺跡の全域は門真市域の西端、パナソニックホールディングス株式会社の敷地内に位置し、淀川左岸の自然堤防上および淀川の旧流路内に立地していたと考えられる。縄文時代から中世の集落遺跡および寺院跡とされているが、未だ確実な集落遺構は確認されていない。後述するが、門真市内で最も古い縄文土器が出土し、慶長大地震による液状化跡が確認されているなど、門真市域で最も知名度が高く、かつ重要な遺跡である。

調査地近辺では、これまで数回調査が行われ、遺構・遺物が確認されているが、報告書が刊行されている5回の調査について概要を述べたい。

昭和62（1987）年、今回の調査地から京阪電車西三荘駅を越え、南300mの橋波口遺跡範囲内で、共同住宅・店舗ビル建設に伴う発掘調査を実施した。この調査では、奈良時代の甕棺墓、平安時代初め頃の井戸、平安時代中期の祭祀遺構と考えられる灰の詰まった大きな穴のほか、中世の溝等が発掘され、土器のほか牛馬の骨等も出土した（門真市教育委員会『門真市橋波口遺跡発掘調査概要』1992）。

平成元（1989）年、当調査地の北西200mに位置する松下電工株式会社（当時）敷地内において、第二別館建設に伴い発掘調査を実施した。この調査地は、門真市の西三荘遺跡に含まれるが、隣接する守口市の八雲東遺跡とまた

がっているため、両市で合同調査を実施した。この調査では、門真市最古の考古資料となっている縄文時代後期の土器のほか、弥生時代中期～中世の土器、石器、鉄製品、木製品、牛馬等の骨が出土した。さらに室町時代の墓地に関係するとみられる遺構が確認され、土師皿、応永17（1410）年銘等の墨書きのある卒塔婆、柿経等が出土した。またこの時の調査で、慶長元（1596）年の伏見地震による液状化跡が確認されている（門真市教育委員会・守口市教育委員会『西三荘・八雲東遺跡発掘調査概要』1993）。

平成14（2002）年、当調査地の南東300mに位置し、元町遺跡範囲内である元町中央公園において、整備事業に伴う発掘調査を実施した。この調査では、古墳時代中期の掘立柱建物跡の一部と、建物跡に並行する長円形の土坑を検出した。これは市内において発掘調査により中世以前の建物跡を検出した初めての例である。土坑からは、須恵器、土師器のほかに、市内で初めて良好な保存状態の製塩土器が大量に出土した（門真市教育委員会『元町遺跡』2003）。

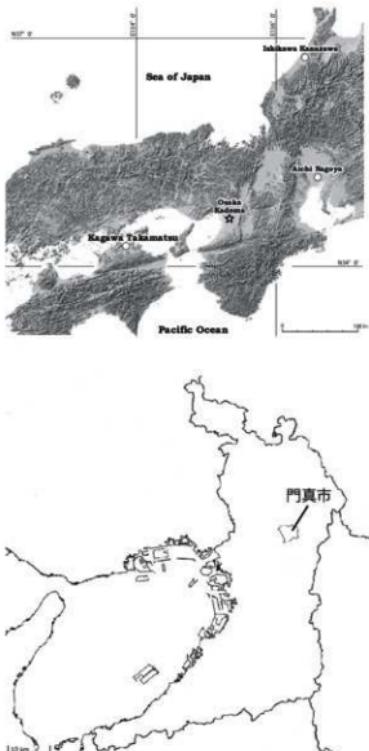
平成28（2016）年、当調査地の南西200mに位置する西三荘遺跡範囲内のパナソニック株式会社（当時）敷地内において、松下幸之助歴史館新築工事に伴う発掘調査を実施した。この調査では、近世の畠を検出し、陶磁器、瓦器、瓦質土器、土師器、須恵器、瓦、木製品が出土した（門真市教育委員会・公益財团法人大阪府文化財センター『西三荘遺跡』2016）。

令和3（2021）年、当調査地の南東200mに位置する元町遺跡範囲内のパナソニック株式会社（当時）敷地内において、（仮称）パナソニック株式会社西三荘駅前ビル計画に伴う発掘調査を実施した。この調査では、古墳時代中期の井戸や土坑、溝および中世の井戸や溝を検出し、須恵器、土師器、瓦器、土玉、白玉、木製品、剣形石製品が出土した。古墳時代の土坑からは大型建物の扉に用いられたと考えられる木製扉板の一部が出土し、扉板の下には完形品の

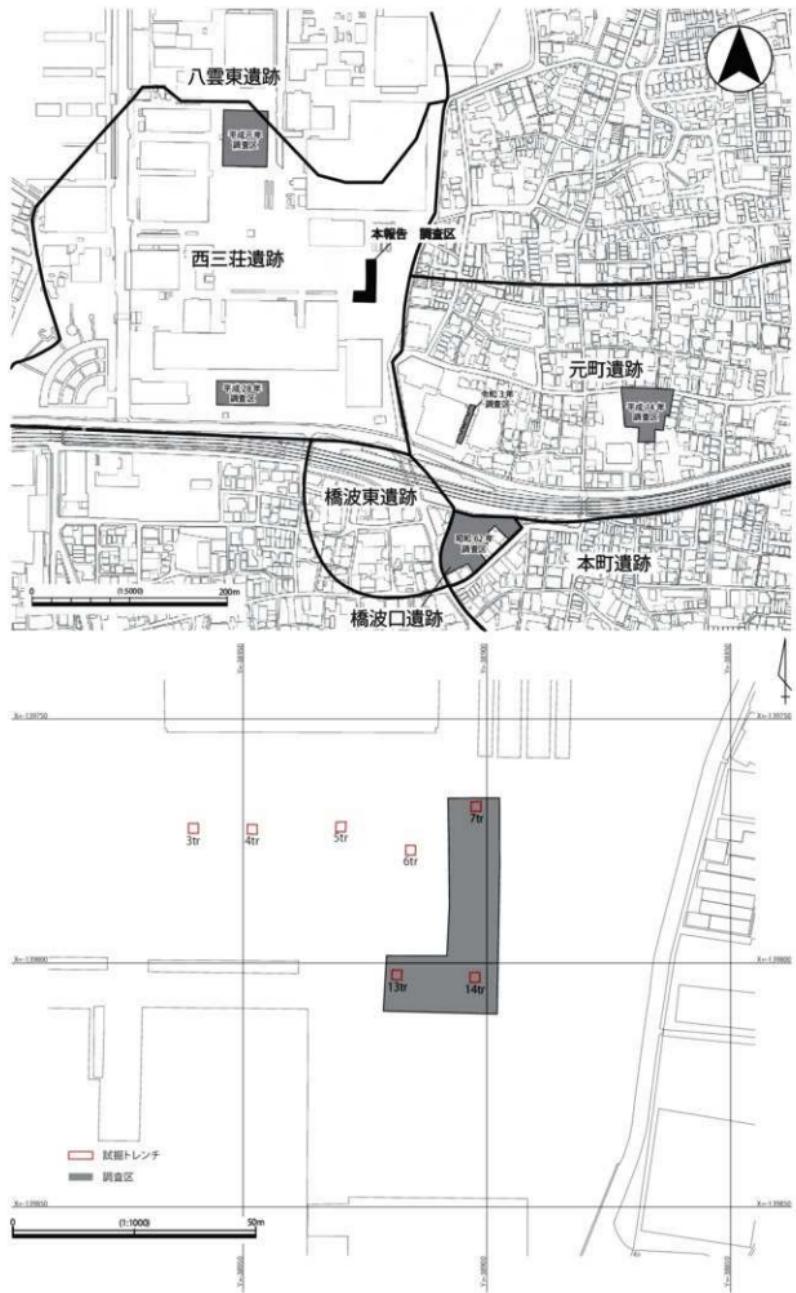
土師器甕が埋納されていた。木製扉板は木棺直葬墓の部材として転用された可能性がある（門真市『元町遺跡II』2022）。

以上、既刊の報告書の調査について記述したが、縄文時代から近世に至るまで、様々な遺構・遺物が検出されており、それ以外に当調査地の近隣でおこなわれた確認調査でも埴輪片が出土しており、周辺に古墳が存在した可能性が指摘されている。

今回の調査は、西三荘遺跡の発掘調査としては3回目となる。



第1図 門真市位置図（国土地理院地図に加筆して作成）



第2図 事業範囲と調査区位置図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

門真市は大阪府の北東部、北河内と呼ばれる地域に位置する。市域の大部分は生駒山系を東に望み、淀川左岸に広がる沖積地の「寝屋川低地」と呼ばれる低湿地であり、大阪平野で最も低い標高4m以下の低地である。北東には寝屋川が北西から南東方向に流れ、中央には古川が北西から南東方向に市域を縱断している。これらの河川に沿って自然堤防が形成されている。

西三莊遺跡は門真市の北西端、大字門真に所在する縄文時代から中世にかけての集落および寺院遺跡であり、北側に八雲東遺跡、東側に元町遺跡、南東に橋波東遺跡、南西に橋波西之町遺跡が隣接している。かつての「河内潟」の北岸に位置し、その沿岸部の旧淀川の形成した氾濫平野に立地する。東側に隣接する元町遺跡が

自然堤防上に広がった集落遺跡であるのに対して、西三莊遺跡は淀川旧流路内に広がっていると考えられるため、確たる集落構造はみつかっていない。同遺跡の包蔵地内は全てパナソニックホールディングス株式会社の敷地内であり、標高2.5m前後に整地されている。周囲は同社の施設、工場が密集しており、かつての耕作地の面影は全く想像できない。

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

門真市は全域が厚い沖積層に覆われているため、現在のところ旧石器時代のヒトの活動の痕跡は確認されていない。大東市深野南のボーリングデータによると、第4氷期（約7万年～1万年前）の河内平野深野地帯は湿地が広がって



第3図 調査地周辺地形図（国土地理院地図に加筆して作成）

おり、現在より寒冷な気候であったことを示しているため、近接する門真市域もほぼ同様の環境であったと考えられている。

2 繩文時代

門真市域でヒトの活動の痕跡を確認できるのは、繩文時代後期からである。前述したように、平成元（1989）年、西三莊遺跡・八雲東遺跡の発掘調査において、この時期の土器片（北白川上層式Ⅲ期・約3500年前）が2点出土した。この土器の表面には磨滅が認められず、他から流入した土器と考えられないことから、周辺に陸地が存在し、漁撈などの活動を営んでいたことが伺える。さらに平成3（1991）年、三ツ島西遺跡の発掘調査において、晩期初頭（滋賀里I又はII式期・約3200年前）の土器片が約50点出土しているが、これらは表面の磨滅が著しく、他からの流入と考えられる。

3 弥生時代

弥生時代から門真市域の遺跡の範囲は広がってくる。前期頃の市域の状況は、河内湾の陸化がさらに進んで、汽水の「河内潟」となっていた。水走沿岸州は離水が進み、細長く延びた砂州上に門真市域の集落が形成されたと考えられる。この時期の市域の集落遺跡は、大和田・普賢寺・西三莊・古川遺跡がある。

昭和38（1963）年、京阪電車大和田駅構内の工事中に、中期に鋳造された銅鐸3個が出土した。周辺は現在、大和田遺跡として包蔵地に指定され、銅鐸は国立歴史民俗博物館に保管されている。昭和60（1985）年と翌61（1986）年に実施した普賢寺遺跡の発掘調査では、前期から中期の土器や石包丁が出土しており、前期と推定される土坑も検出されている。平成元（1989）年、西三莊遺跡の発掘調査において、弥生時代の遺構は確認されなかつたが、中期前半から後期の土器が多く出土した。平成10（1998）年、古川遺跡の発掘調査において、前期から中期に築造された方形周溝墓が10基検出され、市域において前期から集落が存在した

ことがあらためて確認された。

これ以外に昭和37（1962）年に、市南部の三ツ島遺跡から弥生時代のものと考えられる刳船の未完成品が発見され、船体内部から後期の土器片が出土した。

4 古墳時代

古墳時代の門真は、仁徳天皇の時代（5世紀前半）に「茨田堤」が築かれ、「茨田屯倉」が置かれたことが記紀に記されている。残存している堤の一部は、「伝茨田堤」として昭和49（1974）年に大阪府史跡に指定（昭和58（1983）年に追加指定）されている。昭和55（1980）年、「伝茨田堤」の隣接地に位置する宮野遺跡の発掘調査では、中期から後期の土器や滑石製の有孔円板などが出土している。しかし、堤防が築かれた時期を解明する発掘調査成果は、未だ得られていない。

古墳時代の河内では、時代を象徴する巨大前方後円墳が多数築造されたが、門真市域において現在確認されている古墳は少ない。平成12（2000）年、普賢寺遺跡の発掘調査において、市域で初めて古墳が確認され、「普賢寺古墳」と命名された。普賢寺古墳は6世紀初頭に築造された直径約30mの円墳と考えられ、周囲には幅約4mの周溝が巡り、周溝からは、円筒埴輪・朝顔形埴輪のほかに盾持人・蓋・鶴などの形象埴輪が出土した。

令和2（2020）年、普賢寺遺跡の発掘調査においても、普賢寺古墳の南約120mから古墳を新たに1基検出した。この古墳は、5世紀後半に築造された直径約20mの南西部に造出部が付く円墳と推定され、古墳のくびれ部から須恵器や多くの埴輪がまとまって出土した。埴輪には円筒埴輪・朝顔形埴輪のほかに、蓋・家・盾・人物・鳥・馬などの普賢寺古墳を上回る豊富な種類の形象埴輪が含まれていた。現在、門真市域で確認されている古墳は普賢寺遺跡内の2基のみであるが、同遺跡の北約1kmに所在する守口市梶遺跡からは、5世紀末から6世紀前半にかけて築造された3基の古墳が検出さ

れ、豊富な種類の埴輪が出土しており、周辺に古墳群を形成していたと推定されている。同様に豊富な埴輪が出土した普賢寺遺跡周辺にも、同時期に古墳群が形成されていた可能性は高いと考えられる。

平成 14（2002）年と令和 3（2021）年の元町遺跡発掘調査においては、中期から後期の掘立柱建物跡や井戸などの集落遺構が確認されており、土師器、須恵器に加え製塙土器が多く出土している。この集落は、普賢寺遺跡内における古墳 2 基の築造時期とほぼ同時期に存在したと考えられ、古墳の被葬者との関係も含めて重要な遺跡である。

5 古代

門真市域では古代の遺跡は少ない。昭和 62（1987）年、橋波口遺跡の発掘調査において、奈良時代の須恵器の甕を使用した甕棺墓や、奈良時代末から平安時代初頭頃の曲物を転用した井戸、平安時代の祭祀遺構とみられる灰の詰まった土坑が検出された。

6 中世

門真市域では中世に入ると、遺跡の数は増加していく。市内の発掘調査においては、ほぼ中世土器の出土が見られ、中世には集落域が広がっていたことが確認できる。

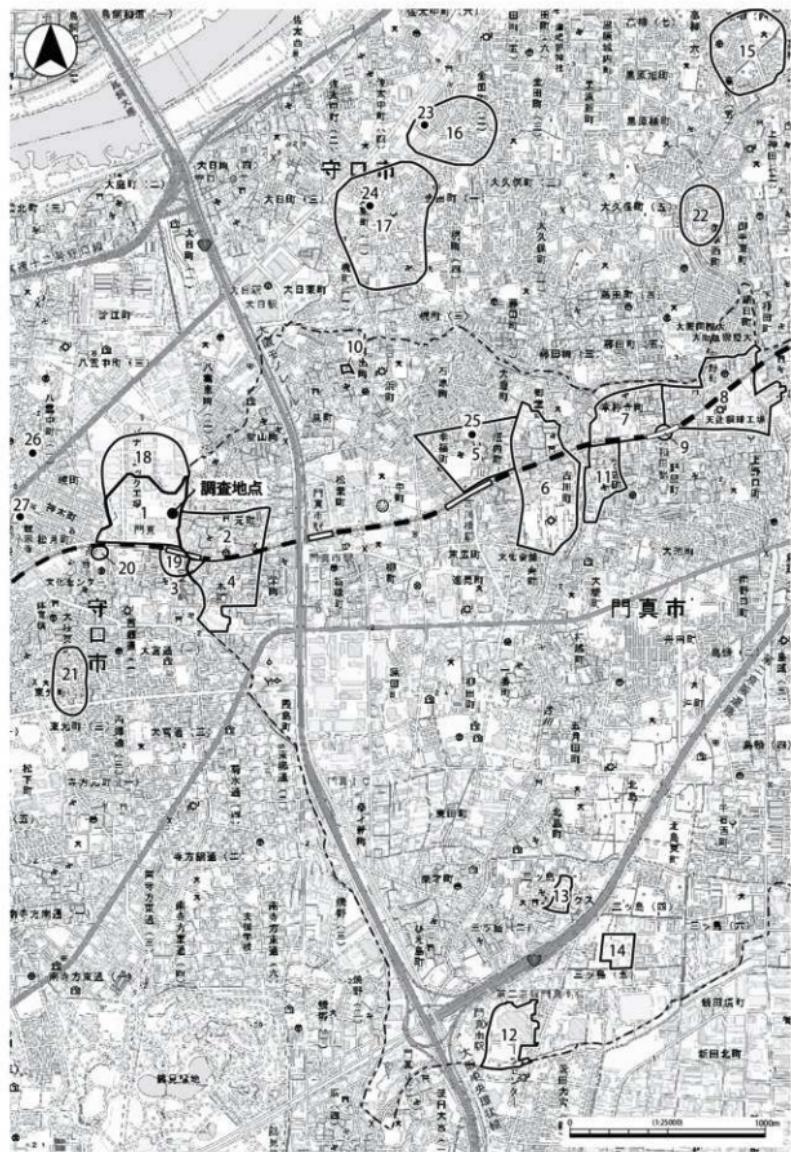
西三荘遺跡の発掘調査では、多くの瓦器椀、土師器皿とともに、鉄製の鎌・ヤス・小刀のほか、応永 17（1410）年銘の卒塔婆や柿経が出土しており、中世の洪水を受けているが、周辺に集落や墓地が存在したと考えられている。

元町遺跡の発掘調査においても、平安時代後期から鎌倉時代の曲物を井戸枠に転用した井戸が検出され、中から瓦器椀や土師器皿が大量に出土している。

普賢寺遺跡は、中世に存在したと文献資料に記されている「普賢寺」に関する寺院跡であるが、これまでの発掘調査において、多くの土器や瓦のほか、柿経、絵馬など寺院の存在を想起させる資料が多くみつかっている。特に昭和

59（1984）年の調査において、鎌倉時代の金銅製密教法具及び金銅製僧形坐像が出土し、平成 17（2005）年に大阪府の指定文化財に登録された。令和 2（2020）年の調査においても、同型の金銅製密教法具の蓋や平安時代末の大型掘立柱建物跡が検出されている。しかし、中世寺院跡を示す確たる遺構は未だみつかっておらず、今後の調査が期待される。

古代以前は市域の北西部の微高地上に遺跡が集中していたが、中世以降は市域北東部でも集落遺跡の存在が確認されるようになる。平成 16（2004）年から同 19（2007）年にかけて実施された菫本遺跡の発掘調査では、掘立柱建物跡や井戸が検出され、さらに水害をふせぐための溝や堤防が築かれていたことも明らかになった。この遺跡からも輸入磁器や瓦、「僧」と墨書された土器など出土しており、周辺に寺院が存在したことを窺わせている。



第4図 周辺の遺跡地図

番号	遺跡名	時代	種別
1	西三荘遺跡	縄文～近世	集落跡
2	元町遺跡	古墳～近世	集落跡
3	橋波口遺跡	奈良～近世	集落跡
4	本町遺跡	奈良～中世	集落跡
5	普賢寺遺跡	弥生～近世	集落跡、社寺跡
6	古川遺跡	弥生～中世	集落跡
7	常称寺遺跡	古墳、中世	集落跡
8	宮野遺跡	古墳～中世	集落跡
9	大和田遺跡	弥生時代	集落跡
10	月出町遺跡	中世	散布地
11	横地遺跡	弥生時代、平安	散布地、その他
12	三ツ島西遺跡	縄文～古墳時代、中世～近世	集落跡
13	三ツ島北遺跡	中世	集落跡
14	三ツ島遺跡	その他（不明）	散布地
15	高柳遺跡	弥生～平安	集落跡
16	大庭北遺跡	古墳～中世	集落跡
17	梶遺跡	平安～近世	集落跡
18	八雲東遺跡	縄文～近世	集落跡
19	橋波東遺跡	弥生～古墳時代、平安～近世	集落跡
20	橋波西之町遺跡	弥生～古墳時代	集落跡
21	東光町2丁目遺跡	中世	集落跡
22	中神田遺跡	中世	集落跡
23	大庭北古墳	古墳時代	古墳
24	梶2号墳	古墳時代	古墳
25	普賢寺古墳	古墳時代	古墳
26	一里塚跡	近世	その他（一里塚）
27	守口宿本陣跡	近世	その他（本陣跡）

表1 周辺の遺跡一覧

第3章 調査成果

第1節 基本層序

今回の調査地は、パナソニックホールディングス株式会社の敷地内であるため、全域が旧建物の建築の際に削平をうけ盛土が施されている。

調査区は南北トレンチと東西トレンチをL字状に掘削したが、南北トレンチの西側と、東西トレンチの南側は、ほとんどが旧建築物による搅乱をうけていた。

今回の調査地の基本層序は、南北トレンチ西壁上層の観察から大別すると、大きく3段階の堆積により成り立っている。

第1段階は、建物建築の際に盛られた盛土層である。現地表面の標高は約2.2m～2.4mで、北側へ向かって下がっている。盛土は標高0m以下～1.7mまで堆積している。調査区の南側は搅乱の為、土層を確認できなかった。南北トレンチ西壁上層の第1層がこの段階である。

第2段階は、旧河川の氾濫平野の上でかつて営まれていた旧耕作土層である。中世の遺物を含む遺物包含層である。第2層～第4層がこの段階である。

第3段階は、河川の旧河道の堆積層である。旧河道の中洲も含まれている。第5層以下がこの段階である。調査終了時に下層確認をしたが、河川の堆積層が厚く、無遺物層の地山は確認できなかった。今回確認された遺構は、ほとんどが中世に中洲の中を掘削したものと認識している。本層上面が遺構検出面である。遺構検出面の標高はおよそ0.7m～1.1mであり、地表面とは逆に、調査区北側に向かって検出面の標高が高くなっている。

第2節 遺構と遺物

1 概要

調査の結果、中世の遺構を9基検出した。内訳は、落ち込み遺構1基、溝1条、土坑5基、自然流路2本である。本報告書では、上記の遺構について、以下に詳細を述べる。自然流路2本については、同一の河川によるものと判断している。

遺物は、遺物収納コンテナ18箱分出土した。自然流路以外の遺構から出土した遺物は、ほぼ11世紀から13世紀のものである。完形の土師器皿、瓦器椀が非常に多く出土した。ほかに須恵器、黒色土器、陶器、磁器、石製品、墨書き木器が出土している。本報告書では、出土遺物のうち遺存状態が良好な実測・記録可能な遺物255点を抽出した。

2 遺構

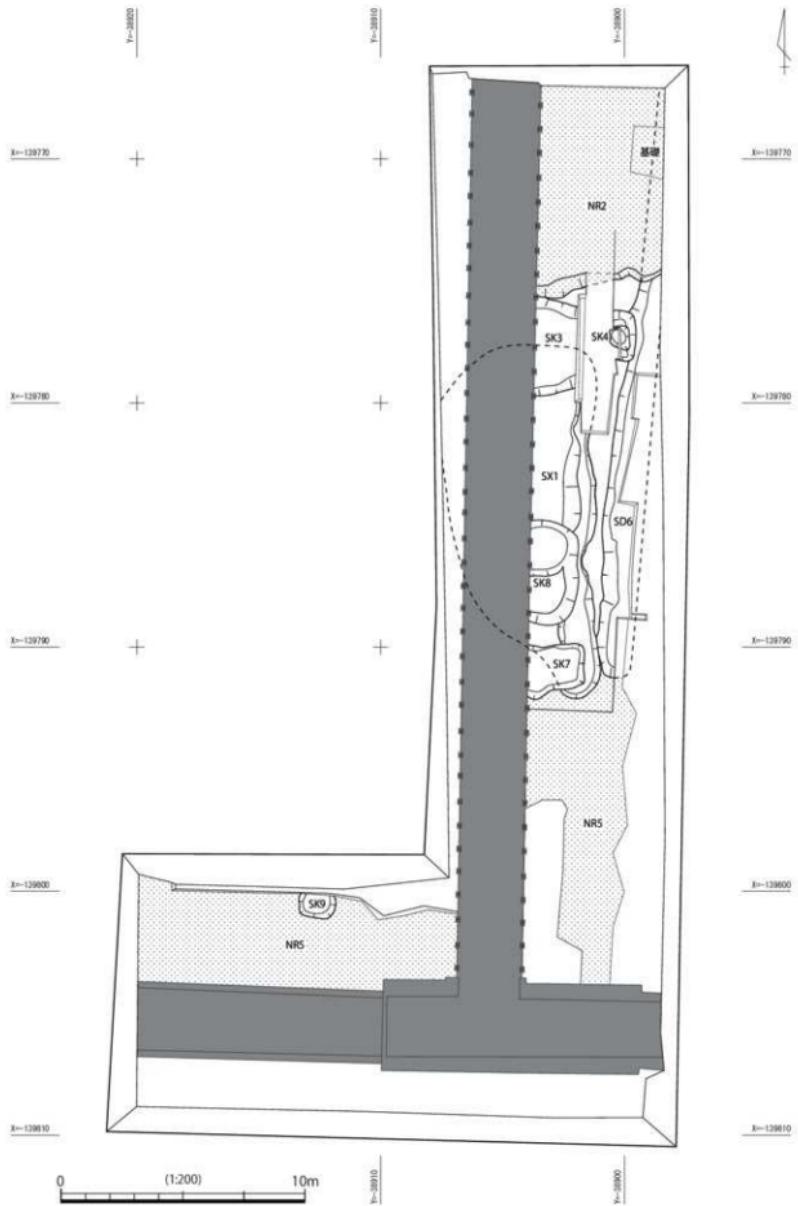
■落ち込み遺構(SX1) (第8・9図:写真2～8)

位 置: 調査区南北トレンチのほぼ中央に位置する。溝1(SD6)の西側を並行するように南北方向に伸びている。遺構確認面の高さは北端が標高1.097m、南端が1.102mである。遺構の北側が搅乱により失われ、南側の一部を土坑3(SK7)、土坑4(SK8)に切られている。

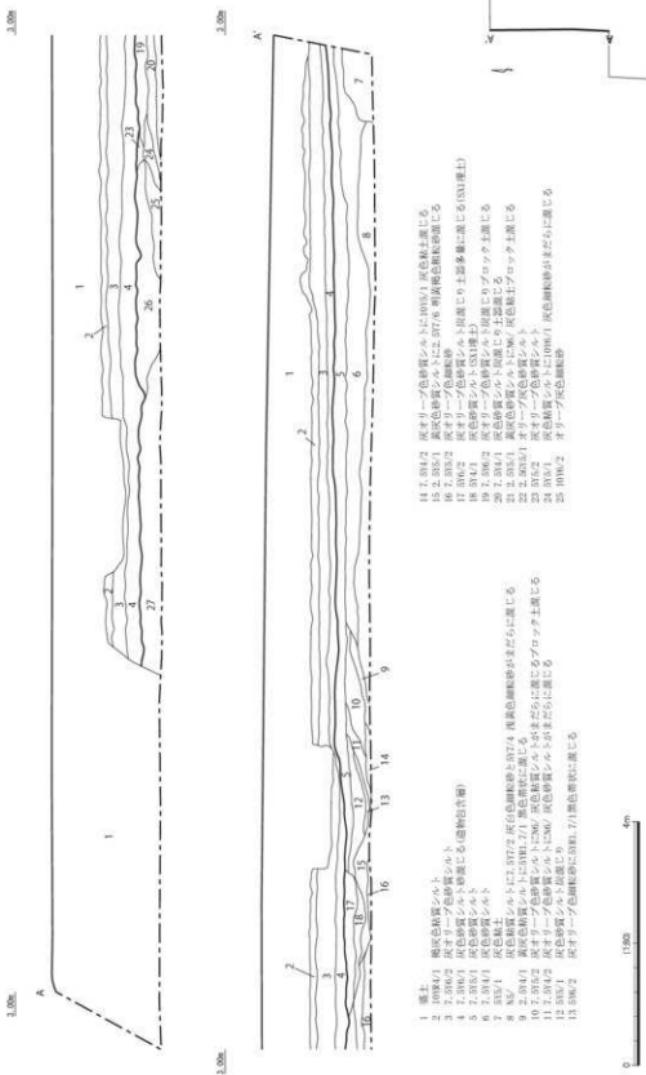
形 態: 掘方の平面形は溝状で、断面形は浅い皿状を呈している。浅い落ち込みの中に大量の土器が埋没していた。

規 模: 検出できた範囲での規模は、長軸12.5m、短軸2.64mで、深さは0.16mを測る。遺構の北側が搅乱により失われ、調査区の西壁にこの遺構の続きと考えられる土器堆積層が確認できるため、本来の遺構の範囲は非常に広かったと考えられる。

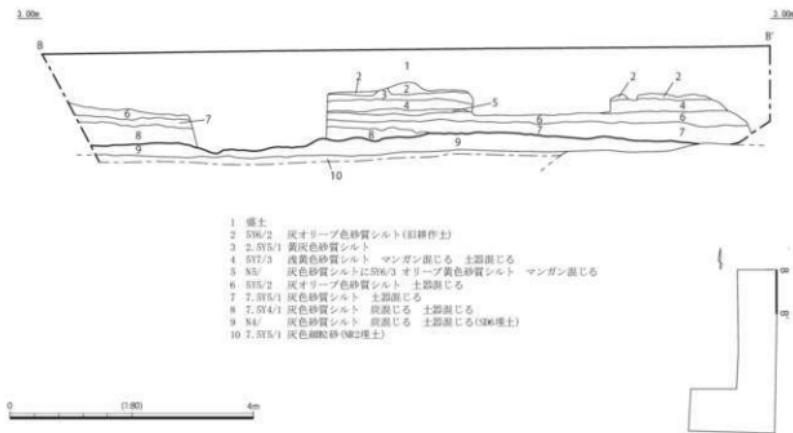
土 層: 褐灰色から灰オリーブ色の砂質シルトを主体としているが、北端部に一部黒色極



第5図 遺構配置図



第6図 西壁土層断面図



第7図 東壁土層断面図

細粒砂が混じった褐灰色細粒砂層が堆積している。

出土遺物: 大量の土師器、瓦器のほかに、須恵器、白磁器、青磁器、黒色土器、石製品、墨書き木器が出土した。遺構の上層と下層に分けて遺物を取り上げたが、層位による時期差はみられなかった。今回の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺物 199 点を抽出した（遺物番号 1 ~ 198・W1）。

遺構時期: 出土した遺物から、本遺構の埋没時期は 13 世紀後半と考えられる。断面観察から、土坑 1 (SK3) が埋まつた後に、大量の遺物が投棄されたと判断した。

■溝 1 (SD6) (第8・9図: 写真9)

位 置: 調査区南北トレンチ中央東寄りに位置する。落ち込み遺構 (SX1) の東側を並行するように、やや弧を描きながら南北方向に伸びている。北端の西側一部を土坑 2 (SK4) に切られている。遺構確認面の高さは北端が標高 1.034 m、南端が標高 0.905 m である。主軸方向は N -12° - E を示す。

形 態: 挖方の平面形は溝状で、断面形は深い皿状を呈している。底面は平坦である。

規 模: 検出できた範囲での規模は、長軸

16.2 m、短軸 1.14 m で、深さは 0.58 m を測る。

土 層: 黄褐色から黄灰色の砂質シルトを主体とする層が、ほぼ水平に堆積している。

出土遺物: 土師器、須恵器、瓦器、黒色土器、陶器、白磁器が出土した。今回の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺物 9 点を抽出した（遺物番号 245 ~ 253）。

遺構時期: 出土した遺物から、本遺構の埋没時期は 13 世紀後半と考えられる。落ち込み遺構 (SX1) に遺物を投棄した際に、それを区画するために掘削された溝と推測している。

■土坑 1 (SK3) (第12図: 写真10・11)

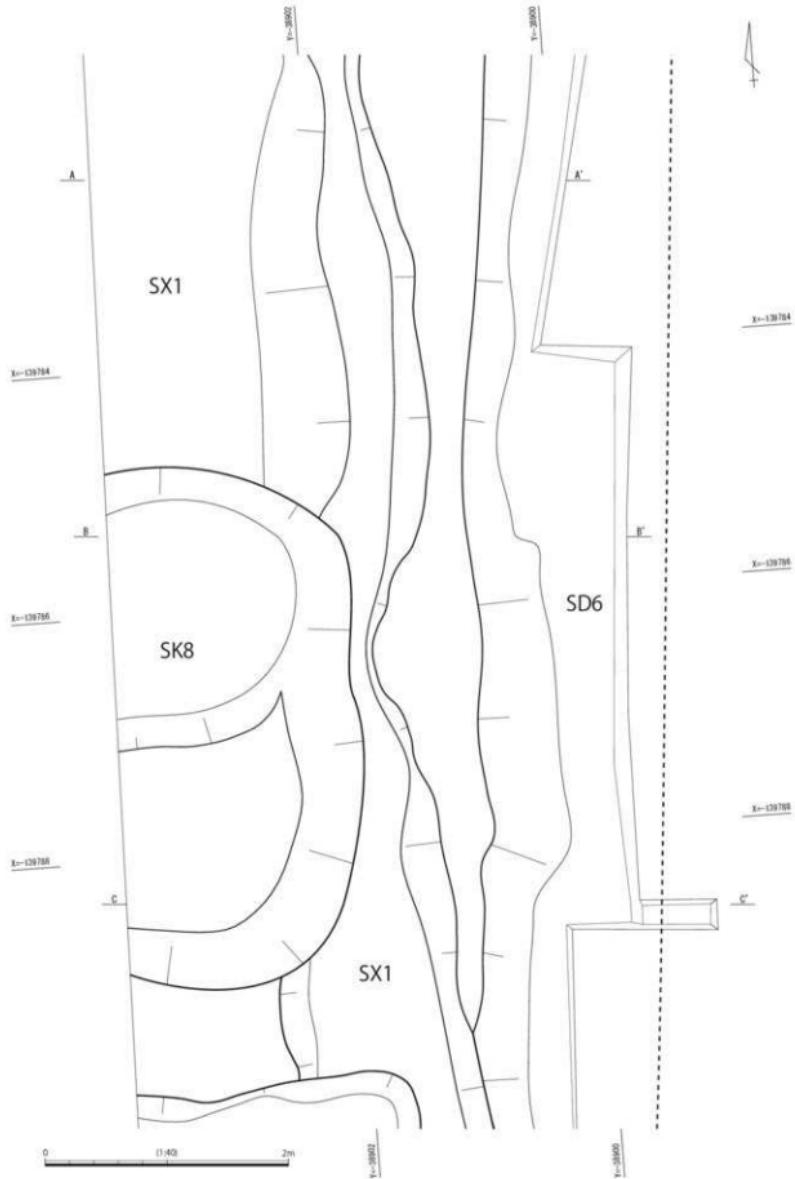
位 置: 調査区南北トレンチ中央や北寄りに位置する。遺構の東西端を搅乱により失われ、南側を落ち込み遺構 (SX1) に切られている。遺構確認面の高さは標高 1.069 m である。

形 態: 挖方の平面形は不整長方形で、断面形はやや深い皿状を呈している。

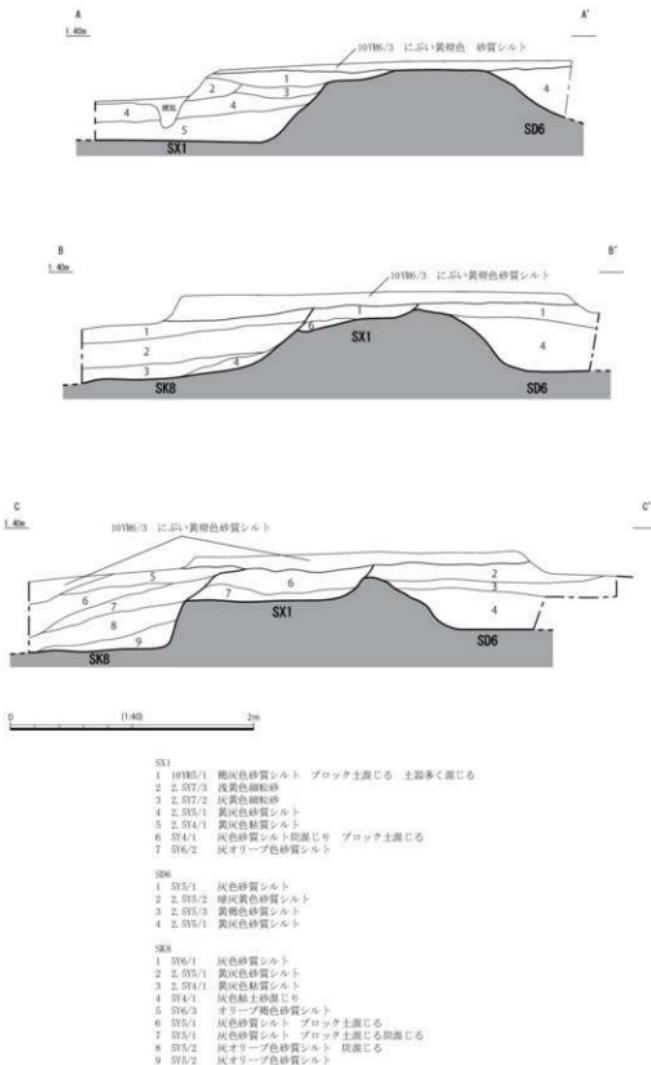
規 模: 検出できた範囲での規模は、長軸 4 m 以上、短軸 2.04 m 以上で、深さは 0.54 m を測る。

土 層: 灰色細粒砂を主体としている。

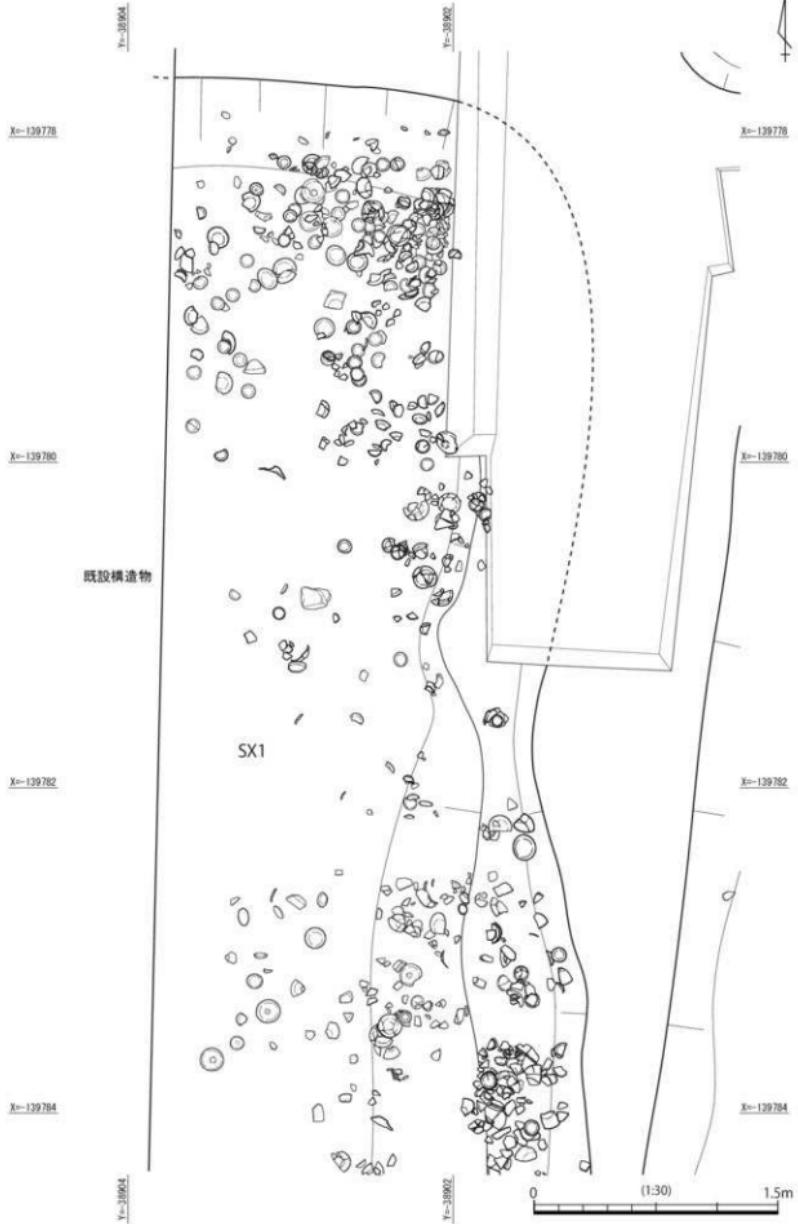
出土遺物: 土師器、瓦器、陶器が出土した。今回の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺



第8図 落ち込み遺構 (SX1)・溝1 (SD6)・土坑4 (SK8) 平面図



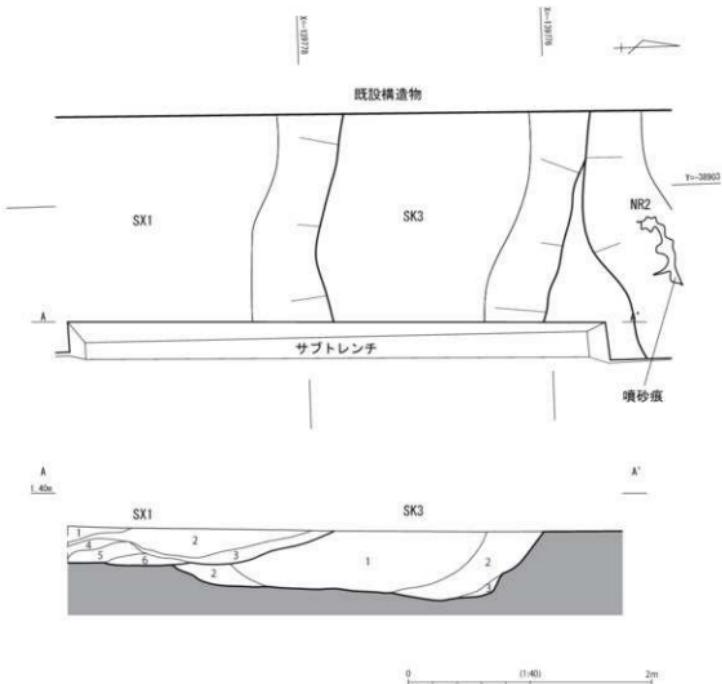
第9図 落ち込み遺構 (SX1)・溝1 (SD6)・土坑4 (SK8) 断面図



第10図 遺物出土状況図（1）



第11図 遺物出土状況図(2)



SX1

- 1 7.SYR4/1 橙灰色極細粒砂(粘性あり)
- 2 7.SYR4/1 橙灰色細粒砂 7.SYR1.7/1 黒色極細粒が砂礫状に入る 土器片含む
- 3 N7/ 灰白色極細粒砂(粘性あり) 多量の土器片含む
- 4 N6/ 灰色極細粒砂(粘性あり)
- 5 N6/ 灰色極細粒砂(粘性あり)
- 6 N6/ 灰色細粒砂(粘性あり)

SK3

- 1 NE/ 灰色細粒砂(粘性なし)に2.5GY 灰白色細粒砂をブロックで含む
- 2 N6/ 灰色極細粒砂(粘性なし)
- 3 N4/ 灰色細粒砂(粘性なし)

第12図 土坑1 (SK3) 平・断面図

物 9 点を抽出した（遺物番号 199～207）。

遺構時期：出土した遺物から、本遺構の埋没時期は 13 世紀後半と考えられる。断面観察から、落ち込み遺構（SX1）に遺物が投棄される前に、周辺に生えていた樹木が倒れた風倒木痕と推察される⁶。

※古川 登氏の教示による

■土坑 2（SK4）（第 13 図：写真 12～14）

位置：調査区南北トレンチ中央や北寄りに位置する。土坑 1（SK3）の東側に隣接し、溝 1（SD6）の西側を切って掘削されている。遺構の西側は攪乱により失われている。遺構確認面の高さは標高 1.024 m である。

形態：掘方の平面形は方形で、断面形は深い皿状を呈している。底面は平坦でやや急に立ち上がる。

規模：検出できた範囲での規模は、長軸 2.06 m、短軸 1.06 m で、深さは 0.53 m を測る。

土層：黄灰色からにぶい黄色の細粒砂を主体とし、概ね 3 層に分けられる。

出土遺物：土師器、瓦器が出土した。今回

の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺物 2 点を抽出した（遺物番号 224・225）。

遺構時期：出土した遺物から、本遺構の埋没時期は 13 世紀後半以降と考えられる。切り合ひ関係から溝 1（SD6）が埋まつた後、土取りの為に掘削されたと考えられる。

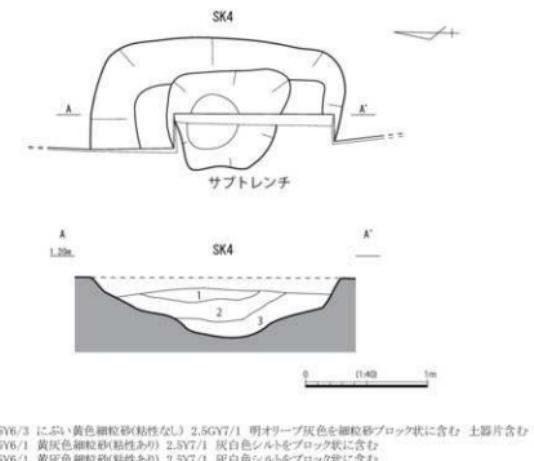
■土坑 3（SK7）（第 14 図：写真 15～18）

位置：調査区南北トレンチのほぼ中央に位置する。土坑 4（SK4）の南側に近接し、落ち込み遺構（SX1）の南端部を切って掘削されている。遺構の西側は攪乱により失われている。遺構確認面の高さは標高 0.852 m である。

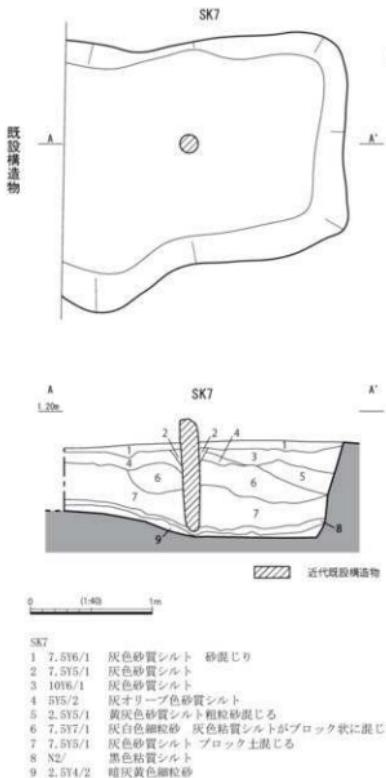
形態：掘方の平面形は不整長方形で、断面形は深い皿状を呈している。底面は平坦でやや急に立ち上がる。中央に後世の護岸杭が残されている。

規模：検出できた範囲での規模は、長軸 2.3 m 以上、短軸 1.84 m 以上で、深さは 0.8 m を測る。

土層：灰色砂質シルトを主体とする複数の層が堆積しているが、中ほどに灰白色細粒砂



第 13 図 土坑 2（SK4）平・断面図



第14図 土坑3(SK7) 平・断面図

の層が帶状に、最下層に黒色粘質シルト層が堆積している。

出土遺物：土師器、瓦器が出土した。遺物は本遺構が掘削された際に落ち込み遺構(SX1)の遺物が埋没したと推測される。今回の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺物16点を抽出した(遺物番号208~223)。

遺構時期：出土した遺物から、本遺構の埋没時期は13世紀後半以降と考えられる。切り合い関係から落ち込み遺構(SX1)が埋まつた後、土取りの為に掘削されたと考えられる。

■土坑4 (SK8) (第8・9図:写真19)

位置：調査区南北トレーニングのほぼ中央に位置する。土坑3 (SK7) の北側に近接し、落ち込み遺構(SX1)の西側を一部切って掘削されている。遺構確認面の高さは標高1.024mである。

形態：掘方の平面形は隅丸長方形で、断面形は深い皿状を呈している。底面は平坦である。

規模：検出できた範囲での規模は、長軸4.22m、短軸2m以上で、深さは0.62mを測る。

土層：黄灰色から灰オーリーブ色の砂質シルトを主体とする複数の層が、西側へ沈むように堆積している。

出土遺物：土師器、瓦器、木製品が出土した。遺物は本遺構が掘削された際に落ち込み遺構(SX1)の遺物が埋没したと推測される。今回の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺物3点を抽出した(遺物番号226・227・W2)。

遺構時期：出土した遺物から、本遺構の埋没時期は13世紀後半以降と考えられる。切り合い関係から落ち込み遺構(SX1)が埋まつた後、土取りの為に掘削されたと考えられる。

■土坑5 (SK9) (第15図:写真20・21)

位置：調査区東西トレーニング北壁沿いに位置する。遺構確認面の高さは標高0.782mである。

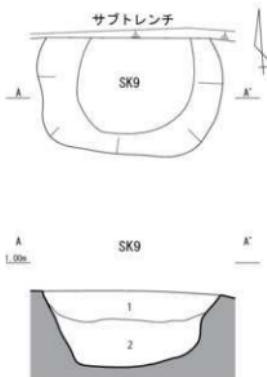
形態：掘方の平面形は隅丸長方形で、断面形はやや歪な深い皿状を呈している。

規模：検出できた範囲での規模は、長軸1.46m、短軸1m以上で、深さは0.64mを測る。

土層：上層が灰色砂質シルト、下層が灰オーリーブ色粘質シルトの2層に分かれる。

出土遺物：土師器、瓦器が出土した。今回の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺物5点を抽出した(遺物番号228~232)。

遺構時期：出土した遺物から、本遺構の埋没時期は13世紀後半以降と考えられる。この土坑のみ、自然流路内を掘削した遺構である。性格は土取孔と考えられるが、他の土坑に比べ規



第 15 図 土坑 5 (SK9) 平・断面図

模が小さく、掘削された箇所も流路内である為、やや疑問が残る。

■自然流路 (NR2・NR5) (第 5 図:写真 22 ~ 25)

位 置: 調査区の全域に位置する。調査区全体が、淀川旧流路内であったと推測されるため、この自然流路がベース面と考えられる。検出面の高さは南北トレンチ北端部が標高 0.740 m、東西トレンチ西端部が 0.854 m である。

土 層: 北側は概ね灰色砂質シルト、南側はオリーブ灰色細粒砂を主体とした層が厚く堆積している。

出土遺物: 土師器、須恵器、瓦器、白磁器が出土した。今回の報告では、出土遺物のうち実測可能な遺物 12 点を抽出した(遺物番号 233 ~ 244)。

造構時期: 出土遺物から、検出面の地層は 13 世紀後半となるが、流れ込みによる古墳時代以前の遺物もみられる。北側から、地震による噴砂痕が確認された。

3 出土遺物

■落ち込み遺構(SX1)出土遺物(第16~21図)

1は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土は精良である。深い器形で、口縁部は横ナデを施してわずかに外反する。口縁端部は丸くおさめる。外面は全面に太い分割ヘラ磨きを施すが、少し隙間がある。体部下方から高台付近にヘラ削りをわずかに認める。内面は全面に太いヘラ磨きを施すが、少し隙間がある。また、内外面の器壁には小さな円錐状の剥離が多く認められる。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

2は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土は精良である。深い器形で、口縁部は横ナデを施して少し外反する。口縁端部は丸くおさめる。外面は全面に太い分割ヘラ磨きを施すが、隙間がある。体部下方から高台付近にヘラ削りをわずかに認める。内面は太いヘラ磨きを密に施している。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

3は瓦器椀である。全体の1/3が残る。胎土は精良である。深い器形で、口縁部は強い横ナデを施して外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面は全面に太い分割ヘラ磨きを施すが、隙間がある。なお、体部下方のヘラ削りは確認できない。内面は全面に太いヘラ磨きを施すが、隙間がある。また、内外面の器壁には小さな円錐状の剥離が多く認められる。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

4は瓦器椀である。高台部の全体と体部の1/4が残る。胎土は精良である。深い器形で、しっかりした高台を貼り付けている。口縁部は二段横ナデを施す。口縁端部は丸くおさめる。外面は全面に太いヘラ磨きを施すが、少し隙間がある。内面は太いヘラ磨きを全面に施すが、少し隙間がある。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

5は瓦器椀である。全体の2/3が残る。胎土は砂粒を含みやや粗い。深い器形で、しっかりとした高台を貼り付ける。口縁端部は丸くお

さめる。体部外面は高台部付近まで全面に太いヘラ磨きを施すが、少し隙間がある。内面は全面に太いヘラ磨きを施す。また、体部外面下位から高台部外面の器壁には、円錐状の小さな剥離が多く認められる。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

6は瓦器椀である。全体の1/3が残る。胎土は精良である。風化して器壁にやや劣化がみられる。深い器形で、口縁端部は丸くおさめる。外面は全面に太い分割ヘラ磨きを施すが、隙間がある。体部外面下方から高台付近にヘラ削りをわずかに認める。内面は太いヘラ磨きを施すが、少し隙間がある。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

7は瓦器椀である。全体の2/3が残る。胎土はやや粗い。深い器形で、口縁部は横ナデを施して外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面は全面に太いヘラ磨きを施すが、隙間がある。内面は全面に太いヘラ磨きを施す。また、内外面の器壁には円錐状の小さな剥離が多く認められる。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

8は瓦器椀である。底部の1/2と口縁部から体部の1/4が残る。胎土はやや粗い。深い器形で、口縁部は横ナデを施して少し外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面は全面に太いヘラ磨きを施すが、隙間がある。体部外面下方から高台付近にヘラ削りをわずかに認める。内面は全面に太いヘラ磨きを施す。また、体部外面下方から高台部外底面の器壁には、円錐状の剥離が多く認められる。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

9は瓦器椀である。高台部の全体と体部の1/3が残る。胎土は精良である。深い器形で、しっかりした高台を貼り付けている。口縁部は横ナデを施す。口縁端部は丸くおさめる。外面は全面に太い分割ヘラ磨きを施すが、少し隙間がある。体部下方から高台付近にヘラ削りを認めめる。内面は太いヘラ磨きを密に施している。本品はその器形や調整の特徴から、I期の和泉型とみられる。

10は瓦器椀である。完形で、器壁が風化しており劣化が認められる。胎土は精良である。口縁端部は横ナデし外反して丸くおさめ、端部内面に一条の沈線をわずかに段をつけるように施す。深い器形で、底部外面に断面三角形の高台を貼り付ける。体部内面は圓線状に、体部外面は分割して、それぞれ細く密にヘラ磨きされる。内底面は鋸歯状のヘラ磨きを組み合わせて斜格子状とする。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅰ期の大和型とみられる。

11は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土は精良である。深い器形で、体部は内湾して立ち上がる。底部外面に断面台形の低い高台を貼り付けている。粘土板接合による体部上位の器壁の肥厚は顕著である。体部内面は圓線状に密にヘラ磨きされる。内底面には省略した連続梢円状のヘラ磨きを施す。体部外面は高台付近まで分割してヘラ磨きされるが、かなり隙間がみられる。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅰ期の楠葉型とみられる。

12は瓦器椀である。底部の全体と、口縁部から体部の1/4が残る。風化して器壁にやや劣化がみられる。胎土は精良である。深い器形で、体部は内湾して立ち上がる。底部外面に断面台形の低い高台を貼り付けている。粘土板接合による体部上位の器壁の肥厚は顕著である。体部内面は圓線状にヘラ磨きされるが、少し隙間がある。内底面には連続梢円状のヘラ磨きを施す。体部外面は高台付近まで分割してヘラ磨きされるが、かなり隙間がみられる。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅰ期の楠葉型とみられる。

13は瓦器椀である。完形で、胎土は精良かつ、炭素吸着も良好である。器形は少し浅めで、底部外面に断面三角形の低い高台を貼り付けている。体部は内湾して立ち上がる。粘土板結合により体部上位の器壁が肥厚する。口縁端部は外反せず、端部内面に沈線を施す。体部内面は圓線状に省略したヘラ磨きを、内底面には連続長梢円状のヘラ磨きを施す。体部外面のヘラ磨きは省略される。本品はその器形や調整の特徴

から、Ⅲ期の楠葉型とみられる。

14は瓦器椀である。底部の全体と体部の1/3が残る。風化して器壁にやや劣化がみられる。胎土は精良である。口縁端部はわずかに外反し、端部内面に沈線を段をつけるように施す。深い器形で、体部は内湾して立ち上がる。粘土板接合による体部上位の器壁の肥厚は、共伴する楠葉型のそれに比べて目立たない。外側に踏ん張る、しっかりした高台を貼り付ける。体部内面は圓線状に、体部外面は分割して、それぞれ細く密にヘラ磨きされる。内底面は不明瞭ながら、鋸歯状のヘラ磨きを組み合わせて格子状としている。本品はその器形や調整の特徴からⅠ期の大和型とみられる。

15は瓦器椀である。底部の1/2と、口縁部から体部の1/4が残る。風化して器壁にやや劣化がみられる。胎土は精良である。口縁端部はわずかに外反し、口縁内端に沈線を施す。深い器形で、体部は内湾して立ち上がる。粘土板接合による体部上位の器壁の肥厚は、共伴する楠葉型のそれに比べて目立たない。体部内面は圓線状に密にヘラ磨きされる。内底面のヘラ磨きは鋸歯状のヘラ磨きを組み合わせて密な格子状とする。体部外面は分割してヘラ磨きされるが隙間がみられ、下半は省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅰ期の大和型とみられる。

16は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土はすこし粗く厚手である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に鋸歯状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

17は瓦器椀である。完形で、胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されてい

る。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

18は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

19は瓦器椀である。完形で、胎土は精良かつ炭素吸着も良好である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

20は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土は精良かつ炭素吸着も良好である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

21は瓦器椀である。完形で、胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面から体部内面下方まで平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

22は瓦器椀である。完形で、胎土は精良かつ炭素吸着も良好である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整

の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

23は瓦器椀である。完形で、胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

24は瓦器椀である。全体の3/5が残り、口縁部の一部を除いて炭素吸着がなされていない。胎土は黒色粒や微細な砂粒を含むが比較的精良である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される一方、体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

25は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土は精良だが、細かな砂粒を少し含む。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

26は瓦器椀である。全体の1/3が残る。胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて粗い渦巻状のヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

27は瓦器椀である。完形で、胎土は精良だが細かな砂粒を少し含み、内外面の広範が赤味を帯びて器壁がやや劣化している。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部は横ナデを施し口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて省略化

した渦巻状のヘラ磨きを施すが、内底面のヘラ磨きは省略される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

28は瓦器椀である。高台部と体部の1/4が残る。胎土は精良である。低平な器形で、底部外間に形骸化した高台を貼り付けている。口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から内底面にかけて渦巻状の省略化の進んだヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略され、粘土板接合痕を認める。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

29は瓦器皿である。完形で、胎土は精良である。口縁部外面を強めに横ナデし、口縁端部は丸くおさめる。外底面に粘土板接合痕を認める。内外面ともヘラ磨きはみられない。本品は遺構内で共伴する瓦器椀の時期、調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型である可能性が高い。

30は瓦器皿である。完形で、胎土は精良である。口縁部外面を強めに横ナデし、口縁端部は丸くおさめる。内外面ともヘラ磨きはみられない。本品は遺構内で共伴する瓦器椀の時期、調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型である可能性が高い。

31は瓦器皿である。完形で、胎土は精良である。口縁部外面を強めに横ナデし、口縁端部は丸くおさめる。外底面に粘土板接合痕を認める。内外面ともヘラ磨きはみられない。本品は法量、質感とも30に類似し、遺構内で共伴する瓦器椀の時期、調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型である可能性が高い。

32は土師器大皿である。全体の1/4が残る。やや深い器形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は明灰白色で、胎土は精良である。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。口縁部は一段ナデを施し、端部は尖り気味に外反する。底部外面は不調整である。管見では市内橋波口遺跡出土土師器皿に類例があり、Ⅰ期の瓦器椀や、ての字状口縁土師器皿と共に伴する（門真市教育委員会『門真市橋波口遺跡発掘調査概要』1992 図16 97）。

33は土師器大皿である。全体の1/2が残る。器壁は風化がみられる。色調は黄色味がかった淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に一段横ナデを施す。口縁端部は丸くおさめる。外底面は不調整である。内面から口縁端部外面にかけて、薄くスヌ状の付着物を認める。管見では市内橋波口遺跡出土土師器皿に類例があり、Ⅰ期の瓦器椀や、ての字状口縁土師器皿と共に伴する（門真市教育委員会『門真市橋波口遺跡発掘調査概要』1992 図16）。

34は土師器大皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は体部が内湾ぎみに張り出すもので、口縁部に一段横ナデを施す。口縁端部は少し外反し、丸くおさめる。外底面は不調整である。

35は土師器大皿である。全体の1/3が残る。色調は淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部は一段横ナデを施し、端部は丸くおさめる。外底面はユビオサエのほか不調整である。内外面全体に薄くスヌ状の付着物を認める。管見では市内橋波口遺跡出土土師器皿に類例があり、Ⅰ期の瓦器椀や、ての字状口縁土師器皿と共に伴する（門真市教育委員会『門真市橋波口遺跡発掘調査概要』1992 図16）。

36は土師器大皿である。ほぼ完形で、器壁は風化がみられる。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は体部が内湾ぎみに張り出すもので、口縁部に一段横ナデを施す。口縁端部は少し外反し、丸くおさめる。外底面は不調整である。

37は土師器大皿である。全体の1/2が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は体部の中位で外反する点が特徴で、口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。外底面は不調整である。本品は、共伴する他の土師器大皿とは形態や調整が異なり、近隣の乙訓郡域で、2～3期の瓦器椀と共に伴するものに類似する。

38は土師器大皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土

は精良である。形態は体部が内湾ぎみに張り出するもので、口縁部に二段横ナデを施す。口縁端部は少し外反し、丸くおさめる。外底面は不調整である。

39は土師器皿である。全体の1/4が残る。少し深い器形で、器壁は風化がみられる。色調は黄色味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に一段横ナデを施す。口縁端部は丸くおさめる。外底面は不調整である。内底面の一部に薄くスス状の付着物を認める。管見では市内橋波口遺跡出土土師器皿に類例があり、I期の瓦器椀や、ての字状口縁土師器皿と共に作成する（門真市教育委員会『門真市橋波口遺跡発掘調査概要』1992 図16）。

40は土師器の脚台である。完形で、遺存状態は良好である。色調は明灰白色で、胎土は精良である。接合面で剥離しており、台付皿もしくは台付坏の脚台であろう。管見では大阪府高槻市上牧遺跡の出土例に類似品がある（高槻市教育委員会『上牧遺跡発掘調査報告書』1980第23図292～294）。

41は土師器皿である。全体の1/2が残り、器壁に少し劣化がみられる。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

42は土師器皿である。完形で、色調は明灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

43は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

44は土師器皿である。完形で、色調は少し

赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

45は土師器皿である。完形で、色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

46は土師器皿である。完形で、色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整で粘土板接合痕を認める。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

47は土師器皿である。ほぼ完形で、色調は明灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

48は土師器皿である。完形で、色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整で粘土板接合痕を認める。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

49は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整で粘土板接合痕を認める。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

50は土師器皿である。完形で、色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

51は土師器皿である。完形で、器壁に少し劣化がみられる。色調は半身が少し赤味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

52は土師器皿である。完形で、色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施して少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で、終末期の形態である。

53は土師器皿である。全体の2/5が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデする。外底面は不調整である。

54は土師器皿である。全体の3/4が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は明黄灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は、口縁部から体部内面の半周にススが付着する。

55は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は暗灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整で、粘土板接合痕が残る。

56は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、内端面が少し内側へ屈曲する。また口縁外端面は平坦ぎみで、わずかに圓線状に仕上がっ

ている部分がある。外底面は不調整で、口縁部から体部外面にかけて斜位の粘土板接合痕が残る。

57は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものだが、立ち上がりは緩やかである。口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

58は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

59は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、内端面が少し内側へ屈曲し、外端面は凹線状に面を持つ。外底面は不調整である。

60は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで、わずかに圓線状に仕上げている部分がある。外底面は不調整である。

61は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、内端面が少し内側へ屈曲し、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

62は土師器皿である。全体の1/3が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口

縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、内端面が少し内側へ屈曲し、外端面は凹線状に面を持つ。外底面は不調整である。

63は土師器大皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするが、外端面はいわゆる面取りではなく丸くおさめる。外底面は不調整である。

64は土師器大皿である。全体の1/4が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデする。外底面は不調整である。

65は土師器大皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで、内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

66は土師器大皿である。全体の3/5が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は褐色がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は調整や質感が71に類似する。

67は土師器大皿である。全体の1/4が残る。色調は赤味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

68は土師器大皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部

が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、内端面が少し内側へ屈曲する。外底面は不調整である。

69は土師器大皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで、部分的には凹線状になす。外底面は不調整で、粘土板接合痕が残る。

70は土師器大皿である。完形で、全体に少し風化している。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、内端面が少し内側へ屈曲し、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

71は土師器大皿である。全体の1/3が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は褐色がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すものである。口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は調整や質感が78に類似する。

72は土師器大皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

73は土師器皿である。全体の1/2が残る。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が部分的に平坦ぎみである。外底面は不調整である。

74は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端

部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

75は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

76は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった淡黄灰白色で、胎土は精良である。浅い器形で、口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

77は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

78は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

79は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは省略される。外底面は不調整である。

80は土師器皿である。全体の1/2が残る。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

81は土師器皿である。全体の1/2が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

82は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

整である。

83は土師器皿である。全体の2/3が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し褐色がかかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲し、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

84は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

85は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は一部が少し赤味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲し、外端面の一部が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

86は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

87は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは省略される。外底面は不調整である。

88は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は調整や質感が111に類似する。

89は土師器皿である。全体の3/4が残り、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

90は土師器皿である。完形で、劣化なく遺

存状態は良好である。色調は淡橙灰色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

91は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

92は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調はすこし赤味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

93は土師器皿である。全体の1/2が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

94は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

95は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が部分的に平坦ぎみである。外底面は不調整である。

96は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは省略される。外底面は不調整である。

97は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

98は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し褐色がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が凹線ぎみに平坦で内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は143に類似する。

99は土師器皿である。全体の1/4が残り、器壁に少し劣化がみられる。色調は赤味がかった暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは行わない。外底面は不調整である。

100は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。本品は内面の半分程度と外面の一部にススが付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。

101は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

102は土師器皿である。全体の1/2が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは省略される。外底面は不調整である。

103は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は半身が少し赤味がかった淡黄灰白色で、胎土は精良である。浅い器形で、口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲し、外端面の一部が少し平坦ぎみである。外底面は不調整である。

104は土師器皿である。全体の4/5が残り、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は一部で内側に少し屈曲する。

外底面は不調整である。

105は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

106は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。浅い器形で、口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲し、外端面の一部が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

107は土師器皿である。完形で、全体に少し風化している。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整で、口縁に並行する粘土板接合痕を認める。

108は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

109は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は部分的に少し赤味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が部分的に平坦ぎみである。外底面は不調整である。

110は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。内面に明瞭な粘土板接合痕を認める。

111は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

112は土師器皿である。全体の3/4が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色

で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

113は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は137に類似する。

114は土師器皿である。ほぼ完形で、全体に少し風化している。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは省略される。外底面は不調整である。

115は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、部分的には團環状をなす。外底面は不調整である。

116は土師器皿である。全体の2/3が残る。色調は淡赤灰白色で、胎土は精良である。浅い器形で、口縁部に横ナデを施す。口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。なお、本品は外底面が平滑に仕上がる。

117は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が部分的に内側に少し屈曲し、外端面も部分的に平坦ぎみである。外底面は不調整である。本品は口縁部から体部内面の一部にススが付着する。

118は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

119は土師器皿である。全体の1/3が残る。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする

ため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は内面の一部にススが付着する。

120は土師器皿である。全体の1/4が残る。色調は内面が赤味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

121は土師器皿である。全体の1/5が残る。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

122は土師器皿である。全体の1/2が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は褐色味の強い淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が凹線ぎみに平坦で内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

123は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整で、粘土板接合痕を認める。

124は土師器皿である。全体の2/3が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整で、粘土板接合痕が残る。

125は土師器皿である。全体の1/2が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは省略される。外底面は不調整で、粘土板接合痕が残る。

126は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

127は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化

なく遺存状態は良好である。色調は部分的に赤味がかった暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲し、外端面が部分的に平坦ぎみである。外底面は不調整である。

128は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は調整や質感が111に類似する。

129は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は暗灰白色で、外面は少し茶色がかる。胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲し、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。本品は内面の一部にススが付着する。

130は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

131は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

132は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

133は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

134は土師器皿である。全体の1/4が残る。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が部分的に内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

135は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は部分的に赤味がかった暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲し、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整で、粘土板接合痕が残る。

136は土師器皿である。ほぼ完形で、全体に少し風化している。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

137は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は113に類似する。

138は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

139は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は156に類似する。

140は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで團線状をなし、内端面が内側に少し屈曲する。外底面

は不調整である。

141は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

142は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲し、外端面の一部が少し平坦ぎみである。外底面は不調整である。

143は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し褐色がかたた灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が凹線ぎみに平坦で内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は98に類似する。

144は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し褐色がかたた灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦で内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

145は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

146は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤褐色がかたた灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、部分的に外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

147は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端

部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

148は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し黄味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が四線ぎみに平坦で内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

149は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで圈線状をなし、内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

150は土師器皿である。完形で、全体に少し風化している。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

151は土師器皿である。全体の3/4が残り、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

152は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさらなる横ナデは省略される。外底面は不調整である。

153は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

154は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに少し横ナデする。外底面は不調整である。

155は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は外面が少し赤味

がかった淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

156は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は139に類似する。

157は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

158は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は部分的に赤味がかった淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が部分的に内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

159は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は外面が少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦ぎみで内端面は内側に屈曲する。外底面は不調整である。

160は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は内面の一部にススが付着する。

161は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、内端面の一部が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は口縁部と体部外面の一部にススが付着す

る。

162は土師器皿である。全体の2/3が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

163は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため外端面が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

164は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、部分的には圓線状をなす。外底面は不調整である。

165は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

166は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

167は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

168は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。浅い器形で、口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

169は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土

は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲し、外端面の一部が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

170は土師器皿である。全体の1/2が残る。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

171は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。浅い器形で、口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

172は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

173は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

174は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった淡灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

175は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡黄灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整で、口縁内面から体部内面の一部にススが付着する。

176は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める

割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。外底面は不調整である。

177は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口径に対して底径の占める割合が大きい。口縁部をやや強く一段ナデをし、外反ぎみにする。口縁端部をさらに横ナデするため、内端面が内側に少し屈曲し、外端面の一部が平坦ぎみである。外底面は不調整である。

178は白磁碗である。口縁部から底部の1/3程度が残る。口縁端部は肥厚し玉縁状である。内外面とも施釉されるが、高台疊付と底部外面は無釉である。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗IV類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

179は白磁碗である。口縁部の小片が残る。口縁端部は肥厚し玉縁状である。内外面とも施釉される。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗IV類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

180は白磁碗である。口縁部の小片が残る。口縁端部は肥厚し玉縁状である。内外面とも施釉され、細かな貫入がみられる。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗IV類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

181は白磁碗である。口縁部の小片が残る。胎土は精良である。内外面とも細かな貫入がみられる。口縁端部は小さな玉縁を持ち、体部は内湾する。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗II類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

182は白磁碗である。口縁部のごく小片が残る。胎土は精良である。内外面とも薄めに施釉され、細かな貫入がみられる。口縁端部は小さな玉縁を持ち、体部は内湾する。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗II類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

183は白磁碗である。口縁部から体部上方の小片が残る。体部は口縁部に向かって外方に延び、端部がわずかに外反する直口縁をなす。口縁端部は丸くおさめる。外面は口縁端部近く

までヘラ削りされる。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗V類とされる製品の可能性が高く、11世紀後半～12世紀後半に比定される。

184は白磁碗である。底部の1/2と体部下方の一部が残る。高台部の削り出しが浅く、疊付は磨研され平滑である。体部内面は施釉されるが、外面と高台部は無釉である。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗IV類とされる製品の可能性が高く、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

185は白磁碗である。底部の1/3が残る。胎土は精良である。高台部外面は直に、内面は斜めに削る。斜めの面は平坦でなく、わずかに膨らむ。内外面とも施釉されるが、体部外面の下端から高台部は無釉である。本品は大宰府条坊跡の出土例では白磁碗II類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

186は白磁碗である。底部の1/2が残る。胎土は精良である。高台部外面は直に、内面は斜めに削る。斜めの面は平坦でなく、わずかに膨らむ。内外面とも施釉されるが、体部外面の下端から高台部は無釉である。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗II類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

187は白磁碗である。底部の1/4が残る。胎土は砂粒を含む。高台部外面は直に、内面は斜めに削る。斜めの面は平坦でなく、わずかに膨らむ。内外面とも施釉されるが、高台部疊付から内面は無釉である。本品は、大宰府条坊跡の出土例では白磁碗II類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

188は青磁碗である。口縁部の小片が残る。胎土は精良である。口縁端部は直口で丸くおさめる。口縁端部内面に横目を有する。本品は、大宰府条坊跡の出土例では龍泉窯系青磁碗I類とされる製品で、12世紀中頃～12世紀後半に比定される。

189は青磁碗である。口縁部の小片が残る。胎土は精良である。内外面とも施釉、貫入がみられる。口縁端部は丸くおさめる。外面に鍋運弁文を有する。本品は、大宰府条坊跡の出土例

では龍泉窯系青磁碗Ⅱ類とされる製品で、13世紀前後～13世紀前半に比定される。

190は青磁碗である。口縁部の小片が残る。胎土は精良である。口縁端部はわずかに外反して丸くおさめる。内面に片彫蓮花文を有する。本品は、大宰府条坊跡の出土例では龍泉窯系青磁碗Ⅰ類とされる製品で、12世紀中頃～12世紀後半に比定される。

191は白磁壺である。高台部から底部の小片が残る。胎土は精良で、体部下位から高台には施釉しない。高台端部外面に面取りの削りを行う。本品は大宰府条坊跡の出土例では白磁四耳壺Ⅲ類とされる製品の可能性が高く、11世紀後半から12世紀に出現し、12世紀中頃から13世紀までは継続するという。

192は東播系須恵器の片口鉢である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は砂粒を含む。口縁端部はやや肥厚し、下方にやや拡張される。口縁端部から体部上方は器壁が瓦質化して変色する。本品はその器形の特徴から第1期のものとみられる。

193は東播系須恵器の片口鉢である。底部から体部下位の小片が残る。胎土は砂粒を含む。内底面と体部内面の境は器壁の磨滅がみられる。底部外面に回転糸切痕が残る。

194は滑石製石鍋である。口縁部の小片が残る。色調は少し光沢のある灰色である。口縁部直下に削り出された鈎が巡る。鈎の断面は正台形で、鈎の端は少し垂れ下がる。本品はⅢ類とされる製品で、13世紀ごろに比定される。

195は瓦器盤である。口縁部のごく小片が残る。口縁端部は外傾して肥厚し、面を持つ。内外面とも横ナデ調整である。管見では大阪府高槻市上牧遺跡出土品に類例がある。(高槻市教育委員会『上牧遺跡発掘調査報告書』1980第27図377)

196は土師器鍋である。口縁部から体部中位の3/4が残る。色調は淡茶灰白色で胎土は粗い。口縁部は外反して斜め上方へ立ち上がり、端部は面を持つ。口縁部内面は粗い横位のハケ調整である。体部内面は横位から斜位のナデ調

整である。体部外面は、全体に火熱を受けて劣化しており、調整は判然としない。

197は土師器鍋である。口縁部の小片が残る。色調は淡茶灰白色で、胎土は粗い。口縁部は少し内湾して斜め上方へ立ち上がり、端部は明瞭な面を持つ。口縁部内面から体部内面は横位のナデ調整である。外面は粗い縱位のハケ調整がみられる。

198は土師器土釜である。口縁部の小片が残る。胎土は粗い。口縁端部直下に短い鈎を巡らせる。器壁が磨滅して調整は不明瞭であるが、体部外面に縱位の粗いハケ目を認める。本品は揖津型とされる土師器土釜で、管見では高槻市安満遺跡やツゲノ遺跡出土品に類例があり、I期の瓦器碗や終末期のての字状口縁の小皿と共に伴するという(橋本久和「古代後期・中世の土器」図8 1・2、5(『中世土器研究序論』1992所収))。

■土坑1(SK3) 出土遺物(第22図)

199は瓦器碗である。口縁の一部を欠くがほぼ完形で、胎土は少し粗い。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面に渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面から体部上方にかけて広範囲に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品は、ヘラ磨きの手法に独特の印象を受けるが、その器形や調整の特徴からⅢ期の和泉型とみられる。

200は瓦器碗である。全体の1/3が残る。胎土は精良かつ炭素吸着も良好である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状の幅広いヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

201は土師器大皿である。全体の1/4が残る。色調は黄灰白色で胎土は精良である。形態は口

縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施し、その端部はさらに横ナデする。外底面は不調整で、口縁部外面に粘土板接合痕が残る。

202は土師器皿である。全体の2/3が残る。色調は赤味がかった黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

203は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

204は土師器鍋である。口縁部から体部上方の小片が残る。色調は淡茶灰白色で胎土は粗い。口縁部は外反して斜め上方へ立ち上がり、端部は面を持つ。口縁部内面から体部内面は粗い横位のハケ調整である。体部外面の調整は判然としない。

205は土師器鍋である。口縁部の小片が残る。胎土は粗い。受け口状の口縁で内湾気味に立ち上がり、端部は横ナデしにくくおさめる。体部内面は横ハケ調整である。

206は陶器の耳壺である。口縁部から肩部にかけての小片が残る。胎土は明灰色で精良である。内外面とも緑がかかった灰色の釉を施す。口縁部は短く外反し、肩部外面に二条の沈線と一条の波状沈線を巡らせ、横型の耳を貼り付ける。本品は大宰府条坊跡の出土例では貿易陶器耳壺V類とされる製品で、13世紀に比定される。

207は土師器羽釜である。口縁部の小片が残る。色調は淡茶灰白色で胎土は粗い。鉄製羽釜の形態を模した大型品で、口縁は内傾して立ち上がり、外面に段を三段つくり出す。口縁部から体部内面は褐色がかつて変色しており、使用痕跡と思われる。

■土坑3（SK7）出土遺物（第22図）

208は瓦器椀である。ほぼ完形で、胎土は精良だが細かな砂粒を少し含む。また、炭素吸

着が不十分で、口縁部外面の一部は赤味がかつている。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部は横ナデを施し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から内底面まで、粗い渦巻状のヘラ磨きを施す。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

209は瓦器椀である。完形で、内面の半分近くと外面の一部は、炭素吸着されていない。胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

210は瓦器椀である。完形で、胎土は精良だが細かな砂粒を少し含む。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部は横ナデを施し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から内底面まで、粗い渦巻状のヘラ磨きを施す。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

211は瓦器椀である。完形で、胎土は精良だが細かな砂粒を少し含む。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部は横ナデを施し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状のヘラ磨きを施したのち、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

212は瓦器椀である。完形で、胎土は精良だが細かな砂粒を少し含む。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部は横ナデを施し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて省略化した渦巻状のヘラ磨きを施すが、内底面のヘラ磨きは省略される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期

の和泉型とみられる。

213は土師器大皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は褐色がかった灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、わずかに輪線状に仕上がっている部分がある。外底面は不調整である。

214は土師器大皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で、胎土は精良である。形態は口縁部が体部から直線的に張り出すもので、口縁部に横ナデを施す。その端部はさらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は大小の違いはあるが、調整や質感が216に類似する。

215は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

216は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。本品は大小の違いはあるが、調整や質感が214に類似する。

217は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかった灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整で、スノコ様の痕がみられる。

218は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

219は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し赤味がかって

た淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

220は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

221は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデする。外底面は不調整である。

222は土師器皿である。完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は淡暗灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため、部分的に内端面が内側に少し屈曲する。外底面は不調整で、粘土板接合痕が残る。

223は土師器皿である。ほぼ完形で、劣化なく遺存状態は良好である。色調は灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施すが、端部へのさなる横ナデは省略される。外底面は不調整で、スノコ様の痕がみられる。

■土坑2（SK4）出土遺物（第23図）

224は瓦器碗である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は精良である。口縁端部は横ナデしわざかに外反して、端部内面に一条の沈線を段をつけるように施す。体部内面は輪線状に細く密にヘラ磨きされる。体部外面は横位にヘラ磨きされるが、省略化が進んでいる。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅱ期の大和型とみられる。

225は土師器皿である。口縁部の小片が残る。色調は少し赤味がかった灰白色で、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部は内端面が内側に少し屈曲する。

■土坑4（SK8）出土遺物（第23図）

226は瓦器碗である。全体の1/3が残る。

胎土は少し粗い。口縁端部は丸くおさめる。低平な器形で、底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状のヘラ磨きが、内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

227は土師器皿である。口縁部の1/4と底部のごく一部が残る。劣化なく遺存状態は良好である。色調は少し褐色がかった灰白色で、一部赤味を帯び、胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、口縁端部をさらに横ナデするため、外端面が平坦で内端面は内側に少し屈曲する。外底面は不調整である。

■土坑5 (SK9) 出土遺物（第23図）

228は瓦器椀である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状のヘラ磨きが施され、体部外面のヘラ磨きは口縁部のみにとどまる。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅱ期の和泉型とみられる。

229は瓦器椀である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は精良である。口縁端部は内面に少し面を持ち、丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけてヘラ磨きが施され、体部外面にも少し省略したヘラ磨きがある。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅱ期の和泉型とみられる。

230は瓦器椀である。高台部から体部下方の小片が残る。胎土は精良である。体部内面は圓線状に細く密にヘラ磨きされる。内底面のヘラ磨きは、鋸歯状のそれを組み合わせて格子状とする。体部外面は高台付近まで横位にヘラ磨きされるが、隙間が目立つ。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅰ期の大和型とみられる。

231は吉備系土師器椀である。高台部の小片が残る。色調は灰白色で胎土は精良である。内底面はヘラ磨きされる。本品は瀬戸内方面からの搬入品であろう。

232は土師器皿である。全体の1/4が残り、

器壁に少し劣化がみられる。色調は灰白色で胎土は精良である。口縁部は横ナデをして少し外反し、端部へのさらなる横ナデは行わない。外底面は不調整である。

■自然流路 (NR2) 出土遺物（第23図）

233は瓦器椀である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は精良である。深い器形で、口縁部は横ナデをしてわずかに外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面は全面に太い分割ヘラ磨きを密に施す。体部下方にヘラ削りを認める。内面は全面に太いヘラ磨きを施す。また、内外面の器壁には小さな円錐状の剥離が多く認められる。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅰ期の和泉型とみられる。

234は瓦器椀である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて渦巻状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

235は土師器皿である。口縁部の小片が残る。色調は灰白色で胎土は精良である。口縁部に横ナデを施し、さらに横ナデするため外端面が平坦ぎみで、内端面が内側に少し屈曲する。口縁部外端面に粘土紐接合痕が残る。

236は土師器皿である。ほぼ完形で、色調は淡黄灰白色で胎土は精良である。口縁部は横ナデをして少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で終末期の形態である。

237は土師器皿である。完形で、色調は内面が赤味がかった淡黄灰白色で、胎土は精良である。口縁部は横ナデをして少し屈曲し、端部は内側へ肥厚し丸くおさめる。外底面は不調整である。本品はいわゆる、ての字状口縁の小皿で終末期の形態である。

238は白磁椀である。底部の1/2が残る。口縁端部は肥厚し玉縁状である。内外面とも施釉されるが、高台部は無釉である。疊付は磨研

され平滑である。本品は大宰府条坊跡の出土例では白磁椀IV類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

239は瓦器羽釜である。口縁部から体部上位の小片が残る。胎土は砂粒を含む。口縁部外面に幅約1.5cmの小さな鋤がつく。口縁端部は内傾する面を持ち四線状をなす。口縁部内面は横位のハケ調整、体部内面は横ナデを施す。体部は丸みをもって底部に統いていて、外面は器壁の剥離がみられる。管見では、大阪府高槻市上牧遺跡の出土例に類似品がある。(高槻市教育委員会『上牧遺跡発掘調査報告書』1980第21図216)

240は須恵器有蓋高环の脚部である。脚部下位から脚端部の1/4程度が残る。胎土は砂粒をほとんど含まず精良である。透かしの下端のごく一部が残る。内外面とも丁寧になでている。脚部内面は灰がかぶる。本品は調査地周辺の出土例から、TK23・47号窯出土品併行の可能性が高い。

241は須恵器無蓋高环の脚部である。脚部下位から脚端部の1/5程度が残る。胎土は少し砂粒を含む。透かしは遺存していない。内外面とも丁寧になでている。脚端部は上下に突出させているが稜は少しあまい印象を受ける。脚部内面は灰がかぶる。本品は調査地周辺の出土例から、TK23・47号窯出土品併行の可能性が高い。

■自然流路(NR5)出土遺物(第23図)

242は瓦器椀である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は精良である。口縁部は横ナデして少し外反し、端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて少し省略したヘラ磨きが施され、体部外面にも省略したヘラ磨きがある。また、口縁部内外面に小さな円錐状の剥離がみられる。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅱ期の和泉型とみられる。

243は白磁椀である。口縁部から体部上方の小片が残る。口縁部は屈折し上端は水平にする。端部内面には鋤がつき外方に嘴状に尖

る。体部内面に圓線があり、外面は口縁端部近くまでヘラ削りされる。本品は大宰府条坊跡の出土例では、白磁椀V類とされる製品の可能性が高く、11世紀後半～12世紀後半に比定される。

244は白磁椀である。底部の1/2が残る。高台部外面は直に、内面は斜めに削る。内外面とも施釉されるが、高台部の一部は無釉である。見込みの周囲に段状の圓線が巡る。本品は大宰府条坊跡の出土例では、白磁椀V類とされる製品の可能性が高く、11世紀後半～12世紀後半に比定される。

■溝1(SD6)出土遺物(第23図)

245は黒色土器B類椀である。口縁部のごく小片が残る。全体に磨滅が進んでいる。胎土は精良で、色調は断面とも暗黒灰色である。口縁内端に一条の沈線を施す。体部内面は細い圓線状の、体部外面は横位のヘラ磨きを認める。

246は瓦器椀である。口縁部から体部の1/4が残る。胎土は精良である。体部は内湾して立ち上がり、口縁端部は外反しない。口縁内端の角からわずかに下がった位置に一条の沈線を施す。体部内面は圓線状に、体部外面は分割して、それぞれ密にヘラ磨きされる。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅰ期の楠葉型とみられる。

247は瓦器椀である。口縁部から体部の小片が残る。胎土は精良である。口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面から体部内面にかけて、渦巻状のヘラ磨きが施される。体部外面のヘラ磨きは省略されている。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

248は瓦器椀である。高台部のほぼ全体と体部下方の一部が残る。胎土は精良かつ炭素吸着も良好である。底部外面に形骸化した高台を貼り付けている。内底面に平行線状のヘラ磨きが施される。本品はその器形や調整の特徴から、Ⅲ期の和泉型とみられる。

249は常滑燒甕である。口縁部から頸部の1/4が残る。胎土は白色粒を含む。色調は暗青灰色で、断面は暗紫灰色である。口縁部は厚手

の作りで口縁外端は面を持つ。頸部は直線的に立ち上がる。本品は口縁部や頸部の形態からみて、常滑焼における編年では4形式併行とみられ、13世紀第1四半期に比定される。

250は須恵器甕である。口縁部から頸部の小片が残る。胎土は精良である。中型品で、口縁部に凸帯を巡らす。口頸部は無文で、入念にナデ調整する。口頸部内面と肩部に灰がかかる。本品は口縁部の凸帯や口頸部に波状文を施さないことなどの特徴から、TK23号窯出土品併行とみられる。

251は白磁碗である。口縁部から体部上方の小片が残る。胎土は灰白色で精良である。口縁端部は屈折し嘴状に外方に尖る。本品は大宰府条坊跡の出土例では、白磁碗V類とされる製品の可能性が高く、12世紀中頃～12世紀後半に比定される。

252は白磁碗である。底部が残る。胎土は精良である。高台部外面は直に、内面は斜めに削る。斜めの面は平坦でなく、わずかに膨らむ。内外面とも施釉されるが、体部外面の下端から高台部は無釉である。本品は大宰府条坊跡の出土例では、白磁碗II類とされる製品で、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

253は陶器の壺である。口縁部のごく小片が残る。胎土は明灰色で精良である。内外面とも縁がかった灰色の釉を施す。口縁部は短く外反する。本品は色調や質感、口縁端部の形態が206に酷似することから、大宰府条坊跡の出土例では、貿易陶器耳壺V類とされる製品の可能性が高く、13世紀に比定される。

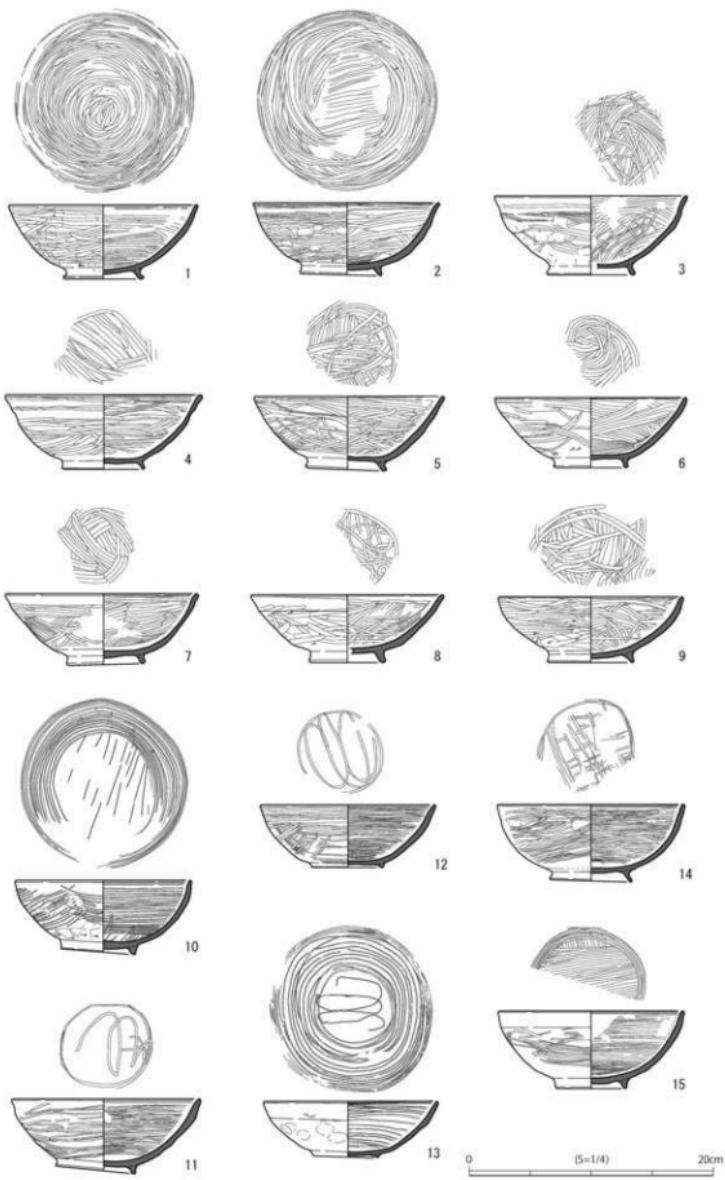
■木製品（第24図）

W1は円形の釘結合曲物で、1点のみの出土で完形である。「釘結合曲物とは円板を側板の内側にはめこみ、側板の上から木釘を打込んで結合したもので、この製作技法の製品は、古代においては身として用いられていたようである」との見解がある（「第2章 遺物解説 8 容器 C 円形曲物」48ページ『木器集成図録近畿古代篇』奈良国立文化財研究所 1984）。

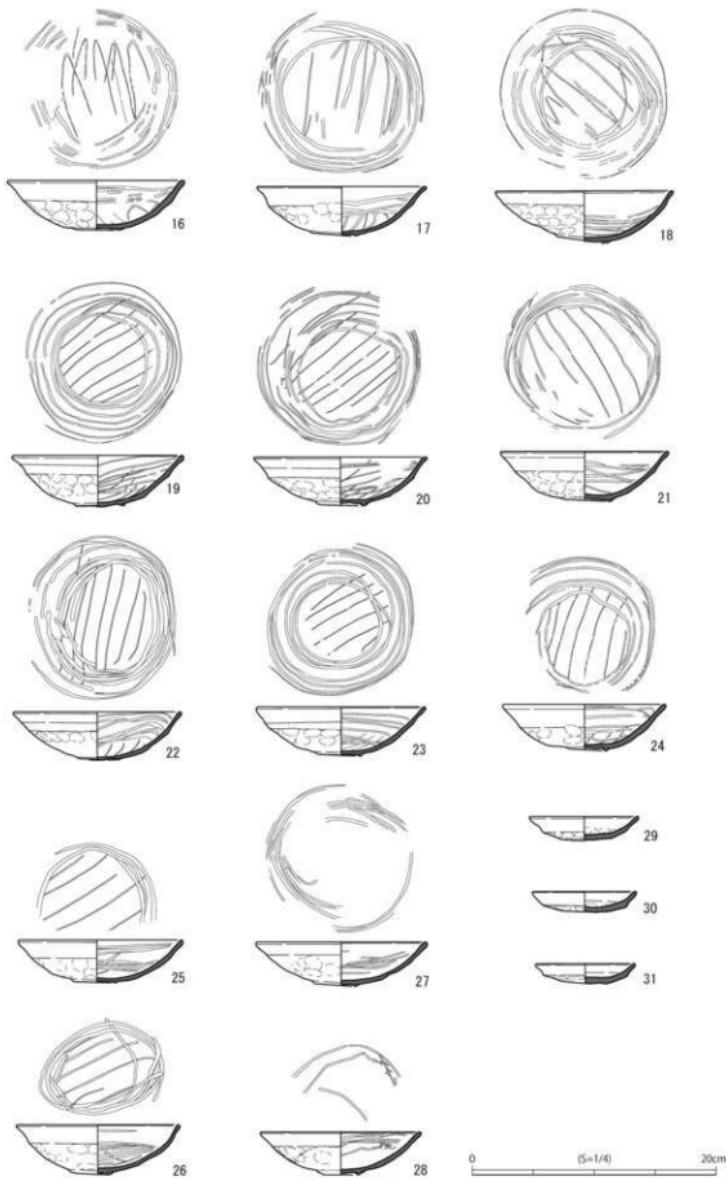
また、「釘結合曲物のうち高さが2.5cm内外のものは、木皿風に用いたのであろう」との見解がある（前掲書49ページ）。本稿もそれらの所見に基づき、本品を、木皿風に用いられた身、として説明を加える。直径10.2cm高さ2.2cmで、これは共伴する土師器皿よりひとまわり大きい程度である。そして材料は一般にヒノキ板を用いられているという（前掲書48ページ）。側板の縫合せは1箇所で、2列前上内下外5段後内1段継じである。結合木釘は、円周をおおむね均分する4箇所にある。底部外面に「於もひかし われも」との墨書きを認める。なお本品が蓋として使用され、その上面に墨書きした可能性も否定できない。

W2は小判形の用途不明品で、完形である。本稿では、長軸方向を上下とし広端側を上、線刻側面を表と仮定して説明を加える。長径8.6cm、短径4.5cmで、厚さは0.5cmの板状である。その上下端は平面形を丸く整えるが、上端に比べ下端は尖らせぎみに仕上がる。長径のおおむね1/3のところの中央に1箇所、方形孔を穿つ。側面にはそれぞれ1箇所づつ計2箇所に切り込みを入れる。また本品の表面下半には、半円弧を2つ組み合わせた針書線刻がみられる。材料は不明である。

（註）なお、本品の調査を進めるにあたり、赤外線画像の作成には奈良大学文学部文化財学科教授魚島純一氏から多大なご助力を賜った。また墨書き解説には、堺市博物館学芸課矢内一磨氏から懇切なご指導を賜った。ご多忙のなか、こころよく応じてくださいましたお二人に、深甚の謝意を表する次第です。

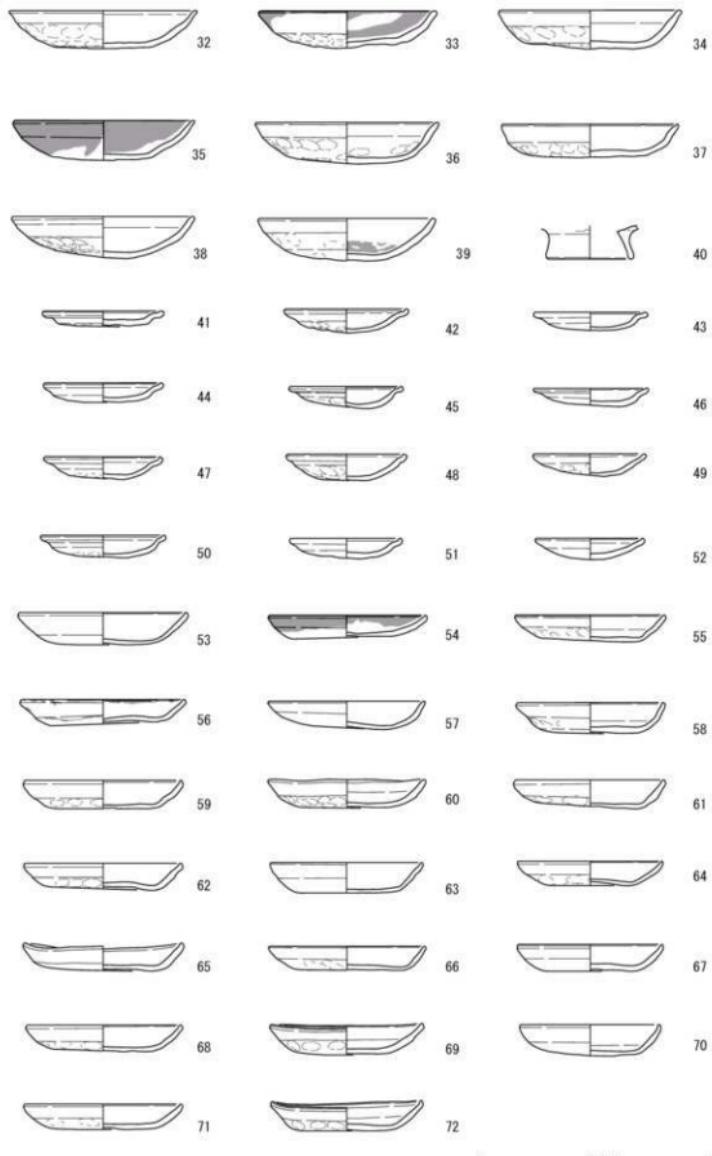


第16図 落ち込み構造 (SX1) 出土遺物 (1)



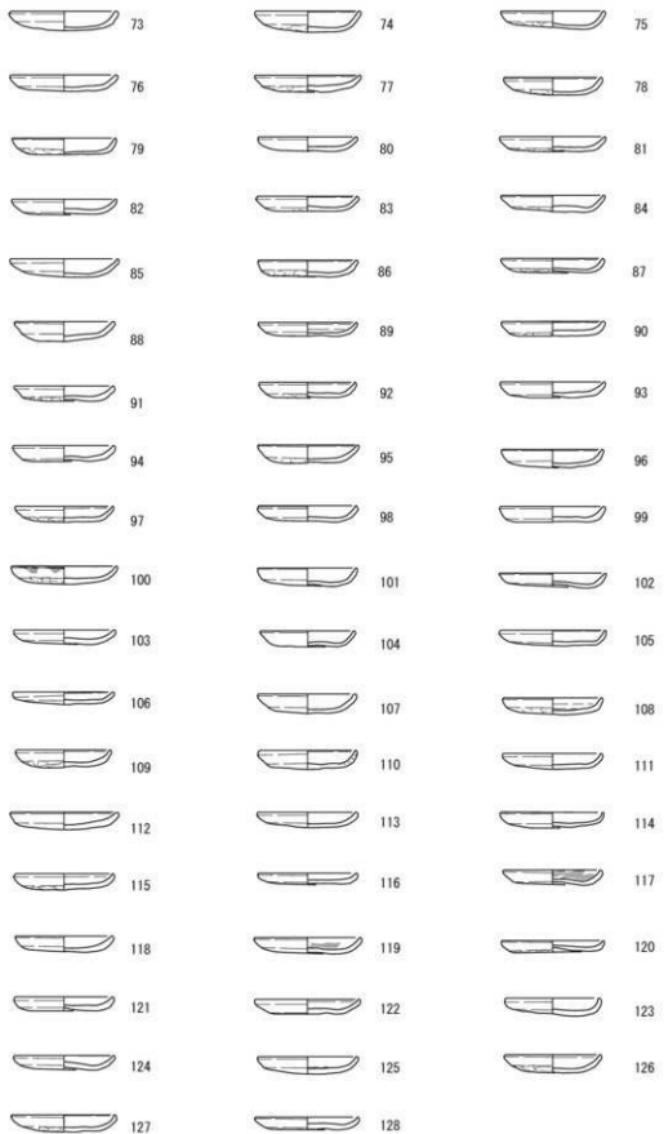
第17図 落ち込み遺構 (SX1) 出土遺物 (2)

SX1



第18図 落ち込み遺構（SX1）出土遺物（3）

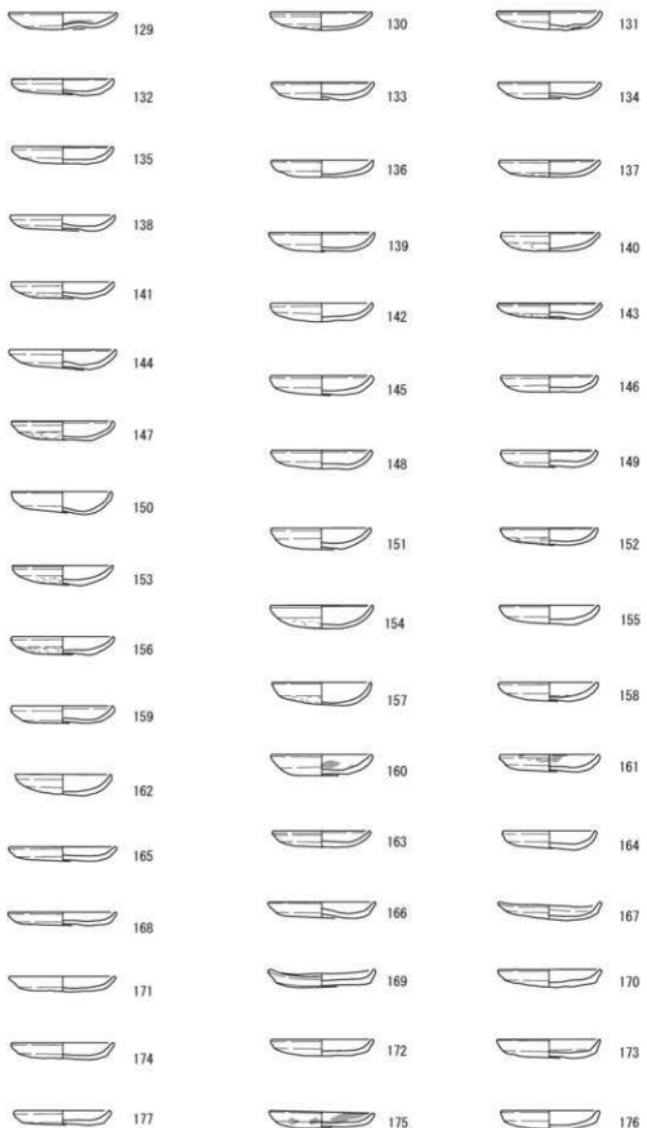
SX1



0 (S=1/4) 20cm

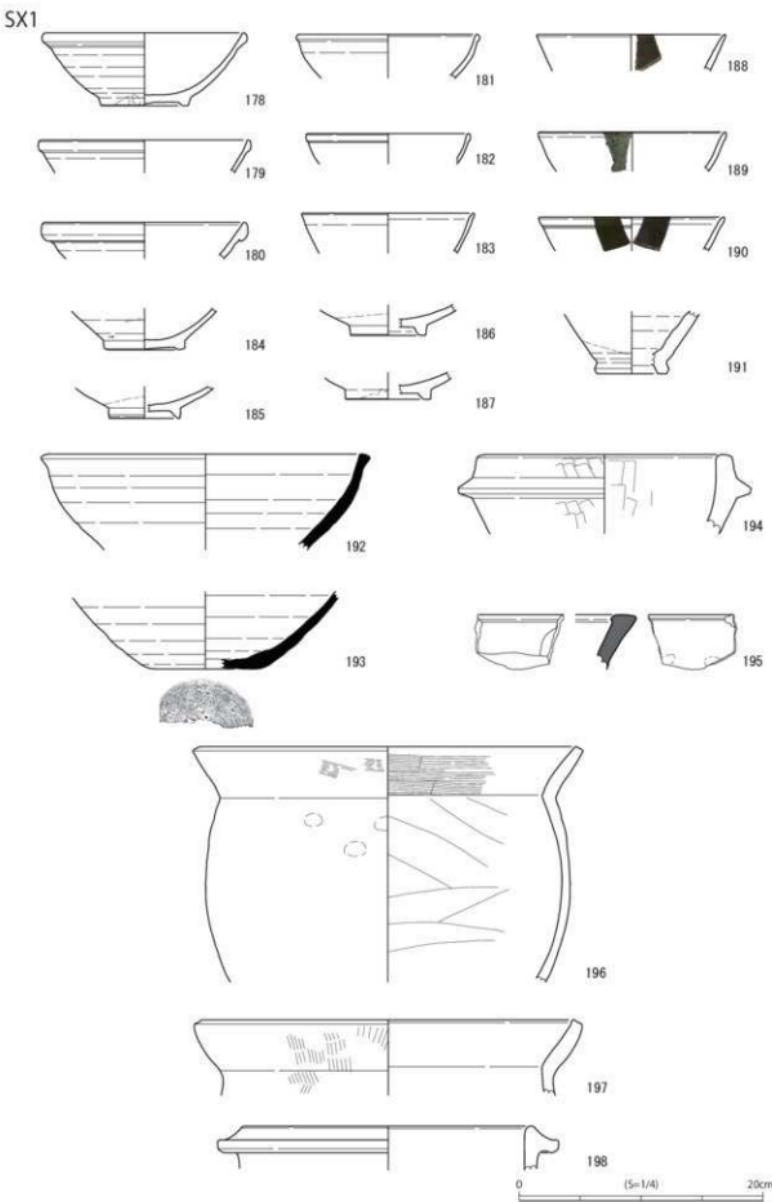
第19図 落ち込み遺構 (SX1) 出土遺物 (4)

SX1



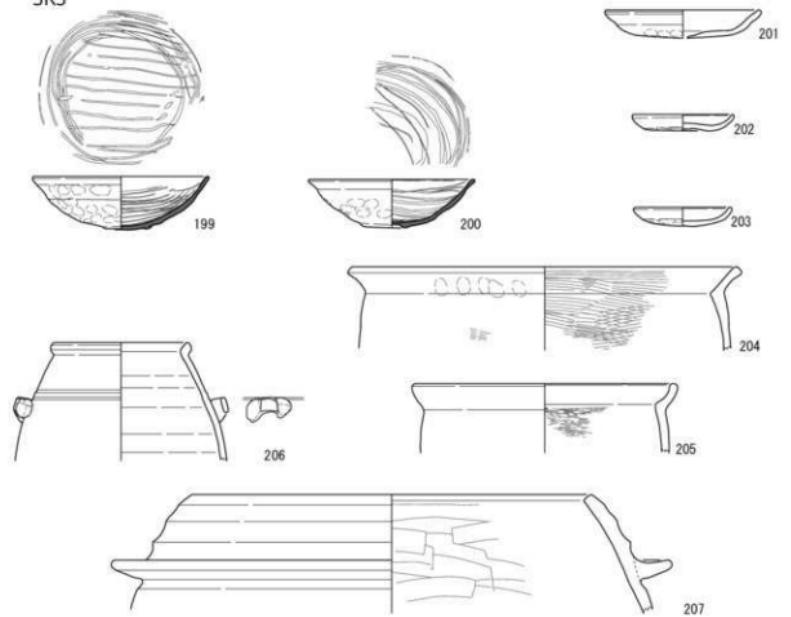
0 (S=1/4) 20cm

第20図 落ち込み遺構 (SX1) 出土遺物 (5)

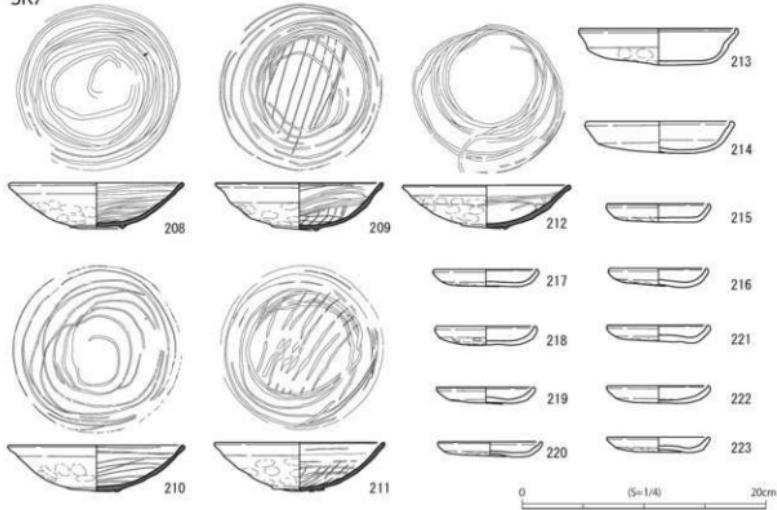


第21図 落ち込み遺構(SX1)出土遺物(6)

SK3



SK7



第22図 土坑1 (SK3)・土坑3 (SK7) 出土遺物

SK4



224



225

SK8

226
227

228

SK9



229



230



231

NR2



233



234



235



236

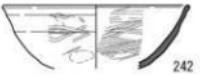


237



238

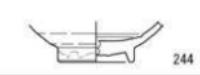
NR5



242

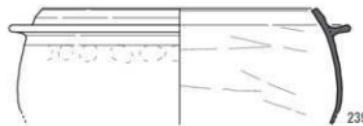


243



244

NR2



239



240

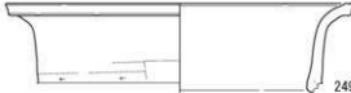


241

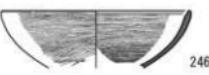
SD6



245



249



246

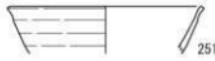


247

250



248



251



252

0

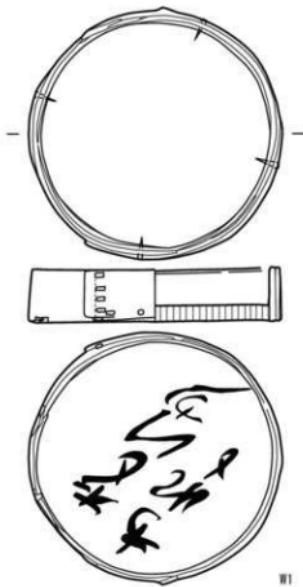
(S=1/4)

20cm

第23図 土坑2(SK4)・土坑4(SK8)・土坑5(SK9)

・自然流路(NR2・NR5)・溝1(SD6)出土遺物

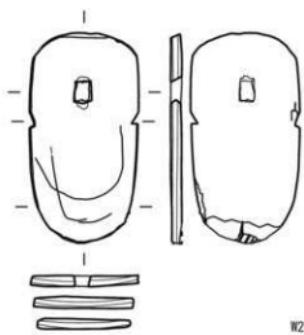
SX1



ち
れ
も
ち
れ
も
ち

W1

SK8



0 (S=1/2) 5cm

第24図 落ち込み遺構 (SX1)・土坑4 (SK8) 出土木製品

第4章 まとめ

今回の発掘調査は、西三荘遺跡の範囲内で計画されたパナソニックホールディングス株式会社の技術部門新棟建築工事にともなって、工事範囲 500m²を調査した。その結果、9 基の遺構を検出し、淀川旧流路の中洲に投棄されたと考えられる大量の中世土器が出土した。

調査地周辺は淀川の氾濫平野であり、今回の調査区は淀川旧流路内であることが調査前から予想されていた。調査区の大部分は旧構築物による攪乱をうけているが、旧流路内に舌状に張り出した中洲を一部検出した。

令和3(2021)年に今回の調査地の東側に隣接する元町遺跡の調査において、曲物を枠に転用した井戸が検出され、中から多くの中世土器が出土した。これによって中世、近隣に大規模な集落が存在したことが改めて確認された(門真市『元町遺跡Ⅱ』2022)。

今回、出土した遺物の時期は、元町遺跡の井戸の中から出土した遺物と概ね一致し、完形の品が非常に多い。そのため、破損して不要になった土器を廃棄したのではなく、この集落を営んでいた住人たちが、河岸あるいは中洲において何らかの大規模な催しを行った後、それに用いた土器を中洲に投棄されたと考えられる。

遺物が大量投棄されていた落ち込み遺構(SX1)の出土遺物は、概ね平安時代後期から鎌倉時代(11世紀から13世紀)に作られた土師器皿と瓦器碗がほとんどであるが、12世紀に作られた土器が非常に少ない。さらに落ち込み遺構内の遺物を上層と下層に分けて取り上げたが、層位による時期差は見られず、11世紀と13世紀の土器が混在して埋没していた。

遺構の埋没時期は13世紀後半と推測されるが、300点以上の土師器皿や瓦器碗を用いるような大規模な催しの内容と、およそ3世紀分の土器を一度に大量に投棄した理由、12世紀の土器がほとんど見当たらない理由を考えてみたい。

この状況を考察すべき資料は乏しいが、中世、門真に「普賢寺庄」と呼ばれる莊園が存在したことが文献資料から窺える。調査地の東1.5kmに位置する普賢寺遺跡からは、13世紀に存在したと推定される梁間2間、桁行9間以上の大型掘立柱建物跡が検出され、多くの土師器皿、瓦器碗が出土している。大型掘立柱建物は莊園の維持・管理や運営を行う館のような施設ではなかったかとも考えられている(門真市・公益財団法人大阪府文化財センター『普賢寺遺跡』2022)。

「普賢寺庄」の範囲は定かではないが、普賢寺遺跡周辺一帯を莊園の中心ととらえるならば、旧淀川左岸に面していた西三荘遺跡周辺は莊園の西端部であり、河岸において、地鎮、止雨あるいは祈雨などの莊園全体で行うマツリが行われたのかもしれない。

近隣では高槻市の梶原南遺跡において、13世紀に溝の中に大量の土器を投棄して周辺の居住域が廃絶したという事例がある(公益財団法人大阪府文化財センター『梶原南遺跡』2022)。

元町遺跡も14世紀以降の確たる集落遺構が検出されていないため、あるいは同様に中洲に大量の土器を投棄して、いわゆる村終いをしたとも考えられる。

12世紀の土器が非常に少ない理由としては、あくまで今回の調査地内での出土状況であって、元町遺跡の集落は、13世紀代まで継続して存在しているため、今回の調査地外に12世紀代の土器がまとめて投棄されたのではないかと推測している。

13世紀後半に集落が消滅した後は、それ以後の中近世の遺物がほぼ見られないため、幾度かの水害をへて、1933年に松下電器製作所が移転してくるまで、耕作地として利用されてきたのであろう(門真市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センター『西三荘遺跡』

2016)。

調査地周辺の開発はほぼ終わっており、残された未調査地は少なく、遺跡の全容を発掘によって掴むことは非常に困難であるが、限られた手掛かりを元に周辺の歴史が解明される日がいつか来ることを切に望むものである。

最後に2年に渡って、大規模な遺跡調査にご協力いただいたパナソニックホールディングス株式会社及び株式会社竹中工務店に厚く御礼申し上げます。

人大阪府文化財センター調査報告書第183集

- ・公益財团法人大阪府文化財センター 2022 『桜原南遺跡』公益財团法人大阪府文化財センター調査報告書第315集
- ・大阪府教育委員会 1992 『三ツ島西遺跡発掘調査概要・I』
- ・大阪府教育委員会 2001 『宮野遺跡』
- ・中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』
- ・中世土器研究会編 2022 新版『概説 中世の土器・陶磁器』
- ・橋本久和 2018 『概論 瓦器焼研究と中世社会』
- ・大阪府教育委員会 2000 『大阪府条坊跡XV・陶磁器分類編』
- ・奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代編』

参考文献

- ・門真市 1988 『門真市史』第一巻 地理・古代文献
- ・門真市 1992 『門真市史』第二巻 中世文献・考古
- ・門真市教育委員会 2006 『門真市文化財ガイドブック』
- ・門真市教育委員会 1982 『宮野遺跡発掘調査概要』
- ・門真市教育委員会 1990 『普賢寺遺跡発掘調査概要・I』
- ・門真市教育委員会 1991 『普賢寺遺跡発掘調査概要・II』
- ・門真市教育委員会 1992 『門真市横波口遺跡発掘調査概要』
- ・門真市教育委員会・守口市教育委員会 1993 『西三莊・八雲東遺跡発掘調査概要』
- ・門真市教育委員会 1999 『古川遺跡』門真市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集
- ・門真市教育委員会 2000 『普賢寺古墳』門真市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
- ・門真市教育委員会 2003 『元町遺跡』門真市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
- ・門真市教育委員会 2014 『史跡 伝茨田堤発掘調査報告書』門真市埋蔵文化財発掘調査報告書第9集
- ・門真市教育委員会・公益財團法人大阪府文化財センター 2016 『西三莊遺跡』門真市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集・公益財團法人大阪府文化財センター調査報告書第272集
- ・門真市・公益財團法人大阪府文化財センター 2022 『普賢寺遺跡』門真市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集・公益財團法人大阪府文化財センター調査報告書第320集
- ・門真市 2022 『元町遺跡II』門真市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
- ・財團法人大阪府文化財調査研究センター 1997 『三ツ島遺跡』
- ・財團法人大阪府文化財センター 2008 『果本遺跡I』財團法人大阪府文化財センター調査報告書第167集
- ・財團法人大阪府文化財センター 2008 『果本遺跡II』財團法

番号	遺物名	種別	年	測量 (m)			測量車	特徴	色調	地土	性質	
				口面	側面	底面						
1	SXI	瓦器	縦	15.30	6.10	(6.20)	往復完形 高台部1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ヘラミガキ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	密	微細な長石、黒色粒含む	良
2	SXI	瓦器	横	15.15	6.00	6.55	往復完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ヘラミガキ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	堅		良
3	SXI	瓦器	縦	(15.60)	6.50	(6.95)	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ・ヘラミガキ・ヨコナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 黄色	密	0.5mm以下の長石、黒色 少含む	やや良
4	SXI	瓦器	横	(15.80)	6.10	6.50	1/4 底部完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ヘラミガキ・ヨコナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	密	1mm以下長石少量含む	良
5	SXI	瓦器	縦	15.40	6.10	6.15	2/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ヘラミガキ・ヨコナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M7/0 淡白色・M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	やや粗 わざかに 含む	2.5mm以下の長石、黒色 少含む	やや良
6	SXI	瓦器	横	(15.40)	5.80	(5.70)	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ・ヘラケズリ・ヨコナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 黄白色	粗	4mm以下長石、0.1mm以下 雲母わずかに含む	良
7	SXI	瓦器	横	15.70	5.90	6.00	2/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ・ヨコナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 黄白色	密	0.5mm長石少含む	良
8	SXI	瓦器	縦	(15.60)	5.60	(5.60)	底部1/2 全体1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ・ヘラケズリ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: 10YR 1/1 オリーブ黑色 断: M4/0 黄白色	密	1mm以下長石少含む	良
9	SXI	瓦器	横	(15.00)	5.40	6.00	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ・ヘラケズリ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	密	0.5mm以下雲母少含む	良
10	SXI	瓦器	縦	14.30	6.10	6.00	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ヘラミガキ・ケズリ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 5YR 1/1 淡白色	堅		良
11	SXI	瓦器	横	15.30	6.10	6.30	往復完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ・ヨコナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	密		良
12	SXI	瓦器	横	(14.20)	5.15	5.60	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ナデ・オサエ 内縁 ヘラミガキ・ナデ ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 淡白色	密		良
13	SXI	瓦器	横	14.20	4.70	5.30	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ナデ・オサエ 内縁 波線一束・ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 淡白色	密		良
14	SXI	瓦器	横	(15.20)	6.40	6.40	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ・ヘラミガキ 内縁 波線一束・ヘラミガキ	内: 7.5YR 1/1 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 淡白色	密		良
15	SXI	瓦器	横	(14.90)	6.35	(5.60)	3/8	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ・ヨコナデ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 10YR 1/1 淡白色	密	1mm以下の雲母、長石少含む	良
16	SXI	瓦器	横	14.30	4.05	3.30	往復完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ・ヨコナデ 内縁 ユビコサエ 後ナデ ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 5YR 1/1 淡白色	堅		やや良
17	SXI	瓦器	横	13.55	4.05	3.70	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M2/0 淡褐色 外: M2/0 淡褐色 断: 5YR 1/1 淡白色	堅		良
18	SXI	瓦器	横	14.30	4.25	4.05	往復完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ユビオサエ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 5YR 1/1 淡白色	やや密	1mm以下の長石少量含む	良
19	SXI	瓦器	横	13.85	4.20	4.00	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ユビオサエ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 10YR 1/1 淡白色	堅		やや良
20	SXI	瓦器	横	13.90	4.00	3.40	往復完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ・ナデ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	堅		良
21	SXI	瓦器	横	13.60	4.10	3.70	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ・ナデ 内縁 ヘラミガキ	内: 2.5YR 1/1 黑褐色 外: M4/0 黄色 断: 5YR 1/1 淡白色	密	微細な長石含む	良
22	SXI	瓦器	横	13.50	4.00	3.25	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	堅		良
23	SXI	瓦器	横	13.70	4.05	3.40	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ユビオサエ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: M4/0 黄白色	堅		良
24	SXI	瓦器	横	13.20	3.80	3.10	3/5 高台部 完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ユビオサエ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 反白色・M4/0 黄色 外: M4/0 反白色・M4/0 黄色 断: M4/0 反白色	やや堅		やや良
25	SXI	瓦器	横	13.20	4.10	3.50	往復完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ・ナデ 内縁 ヘラミガキ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 淡白色	やや粗 1.5mm以下の長石、黒色 少含む		良
26	SXI	瓦器	横	13.30	3.50	3.40	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビコサエ 後ナデ	内: M4/0 黄色 外: M4/0 黄色 断: 7.5YR 1/1 淡白色	密	0.5mm以下雲母、長石含む	やや不良

表2 遺物観察表(1)

番号	遺物名	種別	基盤	測量 (mm)			測定車	特徴	色調	地土	状況
				口径	標高	底幅					
27	SXI	瓦器	板	13.85	3.65	3.30	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・ナデ 内縁 ヘラヘラガキ	内: 2.5YR6.4 にぶい褐色。 外: 2.5YR6.6 棕色	密 1m以下黒母少量、赤色粒や や多く含む	不良
28	SXI	瓦器	板	(12.90)	3.50	2.80	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデヘラヘラガキ	内: 5R10/0 黄白色 外: 5R10/0 黄白色	密	良
29	SXI	瓦器	皿	8.70	1.95	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ユビオサエ・ナデ	内: 5R10/0 褐色 外: 5R10/0 褐色 断: 7.5YB1/1 灰白色	密 微細な黄石含む	良
30	SXI	瓦器	皿	8.40	1.75	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ後ナデ 内縁 ユビオサエ後ナデ	内: 5R10/0 褐色 外: 5R10/0 褐色	密 黒母含む	良
31	SXI	瓦器	皿	8.00	1.65	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 5R10/0 褐色 外: 2.5YB1/1 灰白色	微細な長石、黒母含む	良
32	SXI	土師器	大皿	(15.20)	3.10	-	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ヨコナデ・ユビオサエ 内縁 ユビオサエ・ナデ	内: 2.5VB1/1 灰白色 外: 2.5VB1/1 灰白色	やや密 1m以下長石、赤色粒 含む	やや良
33	SXI	土師器	大皿	14.10	3.10	-	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 ヨビオサエ 内縁 ナデ	内: 7.5YB6.2 にぶい褐色 外: 10YR6.2 灰白色	密 1m以下赤色粒わずかに含む	良
34	SXI	土師器	大皿	14.55	3.20	9.30	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: SYR8/3 泥褐色 外: SYR8/3 泥褐色	やや密	良
35	SXI	土師器	大皿	14.70	3.30	-	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ・ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 5R10/1 黄白色 外: 2.5VB1/1 灰白色	密 1m以下赤色粒わずかに、0.5m 以下黒母含む	良
36	SXI	土師器	大皿	14.80	3.40	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 にぶい黄褐色 外: 7.5YR7/3 灰白色	やや粗 1m以下の長石、赤色 粒、黒母含む 細かい黒母含む	良
37	SXI	土師器	大皿	(14.20)	2.40	-	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 7.5YR8/2 にぶい黄褐色 外: 7.5YR8/2 泥褐色	密 1m以下の黒色粒含む	良
38	SXI	土師器	大皿	14.70	3.45	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 にぶい黄褐色 外: 10YR7/2 灰白色	密 1m以下の長石、赤色粒、細 かい黒母含む	良
39	SXI	土師器	大皿	(14.10)	3.50	-	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ・ユビオサエ 内縁 一段ヨコナデ・ナデ	内: 10YR8/3 にぶい黄褐色 外: 10YR8/2 灰白色	密 1m以下の赤色粒少、0.5m 以下黒母少量含む	やや良
40	SXI	土師器	脚台	-	(2.75)	6.70	高台部 完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ヨコナデ	内: 7.5VB1/1 黄白色 外: 7.5VB1/1 灰白色 断: 5R10/0 黑色	密 0.5m以下の黒母含む	良
41	SXI	土師器	皿	(9.70)	1.20	-	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・ナデ 内縁 ナデ	内: 10YR8/2 黄白色 外: 10YR8/2 灰白色	やや密 1.5m以下赤色粒多量、 0.5m以下黒母含む	やや良
42	SXI	土師器	皿	9.80	1.95	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5VB1/1 黄白色 外: 2.5VB1/1 灰白色	やや粗 3m以下の長石、石英含 む	良
43	SXI	土師器	皿	9.10	1.50	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不規則 内縁 ナデ	内: 10YR8/1 黄白色 外: 10YR8/2 灰白色	やや密 1m以下黒母、長石、石 英少量含む	良
44	SXI	土師器	皿	9.50	1.60	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 脱ぐナデ 内縁 ナデ	内: 10YR7/3 にぶい黄褐色 外: 7.5YR7/3 にぶい褐色	密 1m以下赤色粒、0.5m以下の 黒母やや多く含む	やや良
45	SXI	土師器	皿	9.10	1.80	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 10YR8/2 黄白色 外: 10YR8/2 灰白色	密 0.5m以下の長石、石英、黑 母、赤色粒含む	良
46	SXI	土師器	皿	9.20	1.50	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 オサナデ・ナデ 内縁 ナデ	内: 7.5YR8/3 泥褐色 外: 7.5YR7/2 泥褐色	やや密 1m以下長石、赤色粒少 や多く含む	やや良
47	SXI	土師器	皿	9.45	1.90	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・ナデ 内縁 ナデ	内: 10YR8/2 黄白色 外: 10YR8/2 灰白色	やや密 0.5m以下黒母少量含む	やや良
48	SXI	土師器	皿	9.50	2.15	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5VB1/2 黄白色 外: 2.5VB1/2 灰白色	密 細かい長石、黒母含む	良
49	SXI	土師器	皿	1.85	9.00	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・不規整 内縁 ユビオサエ・ナデ	内: 7.5YR7/2 明褐色 外: 7.5YR7/2 明褐色	やや粗 3m以下赤色粒少、0.1 mm程の黒母やや多く含む	やや良
50	SXI	土師器	皿	10.00	1.85	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5VB1/2 黄白色 外: 2.5VB1/2 灰白色	密 0.5m以下の長石、黒母含む	良
51	SXI	土師器	皿	9.00	1.70	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不規整 内縁 ナデ	内: 7.5YR8/3 泥褐色 外: 7.5YR7/2 泥褐色	やや密 0.5m以下黒母、チャ ート、2~3m以下長石含む	良
52	SXI	土師器	皿	1.70	8.70	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・ナデ 内縁 ナデ	内: 10YR8/2 黄白色 外: 10YR8/2 灰白色	密 1m以下赤色粒少、0.5m 以下黒母やや多く含む	やや良

表3 遺物観察表(2)

番号	遺物名	種別	標本	測量 (cm)			測定車	特徴	色調	地土	性質	
				口径	断面	底面						
53	SXI	土師器	大皿	(13.60)	2.65	-	2/5	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内: 10YR6/1 外: 10YR7/1 断: 10YR7/1	褐色 灰白色 褐色	密 鮮かな長石、雲母含む	良
54	SXI	土師器	大皿	12.60	2.00	-	3/4	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 オビオサエ・ナデ	内: 10YR7/2 外: 10YR7/2	にふい黄褐色 にふい黄褐色	やや密 1m程長石わずかに含む	やや良
55	SXI	土師器	大皿	12.20	1.70	8.00	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・工具ナデ 内縁 ナデ	内: 2.5Y6/1 外: 2.5Y7/2	黄褐色 灰黑色	密 1m以下長石、雲母含む	良
56	SXI	土師器	大皿	12.40	2.30	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内: 7.5YR6/3 外: 7.5YR7/3	浅黄褐色 にふい褐色	密 1m以下色々類、雲母少量含む	良
57	SXI	土師器	大皿	12.60	2.30	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 5YR8/2 外: 5YR8/2	灰白色 灰白色	密 雲母含む	良
58	SXI	土師器	大皿	11.90	2.50	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 外: 10YR7/3 断: 10YR7/3	にふい黄褐色 にふい黄褐色 灰白色	密 細かい長石、雲母含む	良
59	SXI	土師器	大皿	12.80	2.30	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/2 外: 2.5Y7/1	灰褐色 灰白色	やや密 2m以下雲母多く含む	良
60	SXI	土師器	大皿	12.75	2.30	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 外: 10YR6/1	にふい黄褐色 褐色	やや密 細かい長石、チャート、雲母含む	良
61	SXI	土師器	大皿	12.20	2.40	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・不調整 内縁 ナデ	内: 7.5YR6/3 外: 7.5YR7/4	にふい褐色 にふい褐色	やや密 1~2m程赤色地わずかに、1m以下雲母多く含む	良
62	SXI	土師器	大皿	(12.70)	2.30	-	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・不調整 内縁 ナデ	内: 7.5YR7/3 外: 7.5YR8/3	にふい褐色 浅黄褐色	密 1m以下色々類、雲母少量含む	良
63	SXI	土師器	大皿	12.30	2.50	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内: 10YR8/2 外: 10YR8/2	灰白色 灰白色	やや密 1m以下赤色地、無鉱類石含む	やや良
64	SXI	土師器	大皿	(11.80)	2.00	-	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・掌痕、不調整 内縁 ナデ	内: 7.5YR7/3 外: 7.5YR6/4	にふい褐色 にふい褐色	やや密 2m以下の長石、0.5m以下の雲母含む	やや良
65	SXI	土師器	大皿	12.85	2.40	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 仕上げテ	内: 7.5YR8/2 外: 7.5YR8/2	灰白色 灰白色	やや密 1m以下石英、チャート、赤色雲母含む	良
66	SXI	土師器	大皿	12.60	2.00	9.40	3/5	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 10YR6/2 外: 10YR6/2	灰黃褐色 灰黃褐色	やや粗 1m以下長石、赤色約半量、雲母含む	良
67	SXI	土師器	大皿	(11.60)	2.20	-	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内: 10YR7/1 外: 10YR7/1	灰白色 灰白色	やや密 1m以下の雲母、赤色粒わずかに含む	やや良
68	SXI	土師器	大皿	12.60	2.30	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・不調整 内縁 ナデ	内: 7.5YR7/4 外: 7.5YR7/3	にふい褐色 にふい褐色	やや密 1m以下赤色地わずかに含む	良
69	SXI	土師器	大皿	12.35	2.60	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・ナデ 内縁 仕上げテ	内: 7.5YR5/2 外: 7.5YR7/2	暗褐色 暗褐色	やや密 雲母含む	良
70	SXI	土師器	大皿	11.35	2.60	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ・不調整 内縁 ナデ	内: 10YR8/2 外: 10YR8/2	灰白色 灰白色	密 0.5m以下雲母わずかに含む	良
71	SXI	土師器	大皿	(12.80)	2.10	-	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・不調整 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 外: 10YR6/2	にふい黄褐色 灰黃褐色	密 0.5m程雲母含む	やや良
72	SXI	土師器	大皿	12.20	2.50	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 仕上げテ	内: 7.5YR8/4 外: 7.5YR8/3	浅黄褐色 浅黄褐色	やや密 1m以下のチャート、雲母、長石含む	良
73	SXI	土師器	皿	8.55	1.65	-	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内: 10YR7/3 外: 7.5YR7/3	にふい黄褐色 にふい褐色	やや密 1m程赤色地わずかに、0.5m以下雲母多く含む	良
74	SXI	土師器	皿	8.50	1.75	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/2 外: 2.5Y7/2	灰白色 灰白色	密 0.5m以下雲母含む	良
75	SXI	土師器	皿	8.40	1.50	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/2 外: 2.5Y7/2	灰白色 灰白色	密 1m以下長石、雲母含む	良
76	SXI	土師器	皿	8.60	1.30	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内: 7.5YR7/3 外: 10YR7/2	浅黄褐色 にふい黄褐色	密 1m以下長石、微細な雲母わずかに含む	良
77	SXI	土師器	皿	8.55	1.40	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/2 外: 2.5Y7/2	灰褐色 灰褐色	密 雲母含む	良
78	SXI	土師器	皿	7.90	1.45	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/1 外: 2.5Y7/1	灰白色 灰白色	密 細かい雲母、赤色粒含む	良

表4 遺物観察表(3)

番号	遺物名	種別	特徴	測量 (cm)			測定車	特徴	色調	地土	性質
				口径	標高	底幅					
79	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.40	1.40	-	完形	内: SYR7/3 外: SYR7/3	にぶい褐色 にぶい褐色	やや粗	やや良
80	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.00	1.20	-	1/2	内: 10YR7/2 外: 10YR7/2	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	やや密 1m以下長石、チャート、雲母含む	良
81	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.50	1.40	-	1/2	内: 10YR7/3 外: 7.5YR6.3	にぶい黄褐色 にぶい褐色	密 1m程雲母含む	良
82	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.50	1.25	-	ほぼ完形	内: 10YR7/3 外: 10YR7/3	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	密 1m以下長石、石英、雲母含む	良
83	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・不調整 内縁ナデ	(8.20)	1.30	-	2/3	内: 10YR6/2 外: 10YR7/8	反覆褐色 黄褐色	やや密 1m以下の雲母多く含む	やや良
84	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・ナデ 内縁ナデ	8.40	1.40	-	ほぼ完形	内: 10YR7/2 外: 10YR7/2	灰白色 灰白色	密 0.5m以下雲母含む	良
85	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・ナデ 内縁ナデ	1.50	8.80	-	完形	内: 10YR7/3 外: 10YR6/2	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	やや密 0.1m程の雲母少量含む	やや良
86	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	7.90	1.40	-	完形	内: 2.5YR7/1 外: 2.5YR7/1	灰白色 黄灰色	密 雲母含む	良
87	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.20	1.20	-	完形	内: 7.5YR7/3 外: 7.5YR7/4	にぶい褐色 にぶい褐色	密 細かい雲母含む	良
88	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・不調整 内縁ナデ	8.05	1.60	-	完形	内: 10YR7/3 外: 10YR7/3	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	やや密 1m以下雲母含む	良
89	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・ナデ 内縁ナデ	8.00	1.15	-	3/4	内: 7.5YR8/2 外: 10YR7/2	反白色 灰白色	密 細かい雲母含む	良
90	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・不調整 内縁ナデ	8.25	1.20	-	完形	内: SYR7/4 外: SYR7/6	にぶい褐色 褐色	密 1m程雲母含む	良
91	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ユビオサエ・ナデ	8.05	1.35	-	完形	内: 7.5YR8/2 外: 7.5YR8/2	反白色 灰白色	やや密 細かな長石、チャート、雲母含む	良
92	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	7.80	1.25	-	ほぼ完形	内: 10YR7/2 外: 10YR7/2 断: 10YR7/2	にぶい褐色 にぶい褐色 反覆褐色	密 0.5m以下の雲母含む	良
93	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・不調整 内縁ナデ	(8.40)	1.30	-	1/2	内: 2.5YR7/2 外: 10YR7/2	反白色 灰白色	密 0.1m程雲母含む	良
94	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.15	1.30	-	ほぼ完形	内: 10YR7/2 外: 10YR7/2	反白色 にぶい黄褐色	やや密 1m以下雲母含む	良
95	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・ナデ 内縁ナデ	8.10	1.40	-	ほぼ完形	内: 10YR7/3 外: 10YR7/3	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	やや密 1m以下多色鉱少量含む	良
96	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.20	1.50	-	完形	内: SYR7/4 外: 7.5YR7/3	にぶい褐色 にぶい褐色	やや粗 細かい長石、雲母含む	良
97	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	7.90	1.35	-	完形	内: SYR8/4 外: SYR8/4	淡褐色 淡褐色	やや密 雲母含む	良
98	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	7.90	1.35	-	完形	内: 2.5YR7/2 外: 2.5YR7/2	反白色 灰白色	密 0.5m以下の長石、石英、雲母含む	良
99	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ・ナデ 内縁ナデ	(8.50)	1.30	-	1/4	内: 7.5YR6/4 外: 5YR7/3	にぶい褐色 にぶい褐色	密 1m以下雲母や多く含む	やや良
100	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.55	1.50	-	完形	内: SYR8/2 外: 5YR7/1	反白色 灰白色	密 雲母含む	良
101	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.00	1.50	-	完形	内: 10YR7/2 外: 10YR7/2	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	密 0.5m以下の長石、雲母含む	良
102	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.60	1.20	-	1/2	内: 5YR7/3 外: 5YR7/4	にぶい褐色 にぶい褐色	やや密 0.1m以下雲母、赤色鉱少量含む	やや良
103	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	8.20	1.20	-	ほぼ完形	内: 10YR8/2 外: 10YR8/2	反白色 灰白色	密 1m以下の長石、微細な雲母わずかに含む	良
104	SXI	土師器	口縁ヨコナデ 外縁ユビオサエ 内縁ナデ	7.65	1.30	-	4/5	内: 10YR8/2 外: 10YR8/2	反白色 灰白色	やや密 雲母含む	良

表5 遺物観察表 (4)

番号	地質名	種別	層級	深度 (m)			透視率	特徴	色調	地土	地成
				凸面	凹面	底面					
105	SXI	土師器	Ⅲ	8.45	1.30	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR8/3 淡黄褐色 外：10YR8/3 淡黄褐色	密 0.5m以下の長石、石英、雲母含む	良
106	SXI	土師器	Ⅲ	8.10	1.00	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい褐色 外：10YR7/2 にぶい褐色	やや密 1mm以下赤色粒少量。0.1mm程の雲母や多く含む	良
107	SXI	土師器	Ⅲ	7.90	1.60	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 灰白色 外：7.5YR8/3 淡黄褐色	密 1mm以下の雲母わずかに含む	良
108	SXI	土師器	Ⅲ	8.00	1.40	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：5YR8/1 灰白色 外：5YR8/1 灰白色	やや細 0.5m以下の雲母含む	良
109	SXI	土師器	Ⅲ	7.60	1.50	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：7.5YR8/3 淡黄褐色 外：7.5YR7/3 にぶい褐色	やや密 0.5m程赤色粒わずかに。1m程雲母含む	良
110	SXI	土師器	Ⅲ	7.90	1.55	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR6/6 明黄色 外：5YR7/3 にぶい真褐色	密 1mm以下の長石、細かな雲母含む	良
111	SXI	土師器	Ⅲ	8.00	1.30	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR8/2 灰白色 外：10YR8/2 灰白色	やや密 1mm以下赤色粒わずかに。0.5m以下雲母含む	良
112	SXI	土師器	Ⅲ	8.65	1.40	-	3/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ、ナデ 内縁 ナデ	内：2.5YR7/1 灰白色 外：2.5YR7/1 灰白色	密 1mm以下雲母多く含む	やや良
113	SXI	土師器	Ⅲ	8.00	1.25	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：5YR7/1 灰白色 外：5YR7/1 灰白色	密 0.5m以下の雲母含む	良
114	SXI	土師器	Ⅲ	8.30	1.30	-	ほぼ完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 灰白色 外：10YR7/2 にぶい真褐色 断：10YR7/2 にぶい真褐色	密 1mm以下長石、石英含む	良
115	SXI	土師器	Ⅲ	7.90	1.35	-	ほぼ完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR8/2 灰白色 外：10YR8/2 灰白色	やや密 雲母含む	良
116	SXI	土師器	Ⅲ	8.00	0.90	-	2/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ 内縁 ナデ	内：7.5YR7/3 にぶい褐色 外：7.5YR7/3 にぶい褐色	やや密 0.5m以下雲母少量含む	良
117	SXI	土師器	Ⅲ	7.90	1.30	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：5YR7/3 にぶい褐色 断：5YR8/2 淡褐色 断：5YR8/2 淡褐色	密 0.5m程赤色粒。0.1m程雲母わずかに含む	良
118	SXI	土師器	Ⅲ	7.90	1.40	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR8/2 灰白色 外：10YR8/2 灰白色	密 1mm以下赤色粒ごく少量。0.5mm以下雲母や多く含む	良
119	SXI	土師器	Ⅲ	8.50	1.35	-	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ、不調整 内縁 ナデ	内：2.5YR7/2 明灰色 外：2.5YR7/1 明灰色	やや密 1mm以下雲母や多く含む	やや良
120	SXI	土師器	Ⅲ	8.30	1.00	-	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ、不調整 内縁 ナデ	内：2.5YR7/4 黄灰色 断：10YR6/2 淡黃褐色 断：10YR6/2 にぶい黃褐色	やや密 1mm以下雲母多く含む	良
121	SXI	土師器	Ⅲ	(7.90)	1.10	-	1/5	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ユビオサエ後ナデ	内：7.5YR8/3 淡黄褐色 断：7.5YR7/2 明灰色	やや密 1mm以下雲母わずかに含む	良
122	SXI	土師器	Ⅲ	(9.00)	1.20	-	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ、ナデ 内縁 ナデ	内：2.5YR5/1 黄灰色 外：2.5YR7/1 黄灰色	密 1mm以下雲母少含む	やや良
123	SXI	土師器	Ⅲ	7.60	1.50	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：7.5YR7/3 にぶい褐色 外：7.5YR7/3 にぶい褐色	やや密 1mm以下雲母や多く。長石、赤色粒含む	良
124	SXI	土師器	Ⅲ	8.10	1.20	-	2/3	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/1 灰白色 外：10YR7/1 灰白色	やや密 0.1m程雲母や多く含む	やや良
125	SXI	土師器	Ⅲ	8.00	1.40	-	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/1 灰白色 外：7.5YR6/1 極灰色	やや密 0.1m以下雲母少量含む	良
126	SXI	土師器	Ⅲ	7.75	1.50	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：5YR8/2 灰白色 外：5YR8/2 極灰色	密 細かい長石、雲母含む	良
127	SXI	土師器	Ⅲ	8.45	1.50	-	ほぼ完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ、不調整 内縁 ナデ	内：7.5YR7/6 棕色 外：10YR7/4 にぶい真褐色	密	良
128	SXI	土師器	Ⅲ	8.35	1.05	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：2.5YR7/2 灰白色 外：2.5YR7/2 極灰色	密 0.5m以下雲母含む	良
129	SXI	土師器	Ⅲ	8.80	1.40	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ、不調整 内縁 ナデ	内：10YR6/2 極灰色 外：10YR6/2 淡黃褐色 断：7.5YR8/2 極灰色	密 0.1m程雲母少量含む	良
130	SXI	土師器	Ⅲ	8.20	1.50	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：5YR7/1 灰白色 外：5YR7/1 灰白色	密 細かい雲母含む	良

表 6 遺物観察表 (5)

番号	遺物名	種別	量	測量 (cm)			測定者	特徴	色調	地土	状況
				口径	標高	底幅					
131	SXI	土師器	三	8.40	1.60	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR8/2 反白色 外：10YR8/2 反白色	褐 1m以下の中石、石英、雲母 含む	良
132	SXI	土師器	三	8.15	1.40	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：2.5YR7/1 反白色 外：5YR7/1 反白色	褐 1m以下の中石、赤色粒、黒色斑、細かい雲母含む	良
133	SXI	土師器	三	8.20	1.50	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/4 にぶい黄褐色 外：10YR8/2 黄褐色	褐 1m程度雲母含む	良
134	SXI	土師器	三	(8.20)	1.35	-	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：Ml.0 反色 外：10YR8/1 棕褐色	やや褐 0.1m以下雲母多く、赤色斑わざかに含む	やや良
135	SXI	土師器	三	8.10	1.45	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色 外：10YR8/3 にぶい黄褐色	褐 1m以下赤色斑わざかに、0.1m程度雲母含む	良
136	SXI	土師器	三	8.25	1.40	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色 外：10YR8/2 にぶい黄褐色	褐 0.5m以下雲母含む	良
137	SXI	土師器	三	8.05	1.35	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：2.5YR7/1 反白色 外：2.5YR8/1 反白色	褐 細かい雲母、赤色粒、長石含む	良
138	SXI	土師器	三	8.40	1.30	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：7.5YR7/2 明褐反色 外：10YR8/2 明褐反色	やや褐 0.1m以下の雲母粒子含む	やや良
139	SXI	土師器	三	8.50	1.55	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR8/2 反白色 外：10YR8/2 淡黄褐色	褐 細かい長石、雲母含む	良
140	SXI	土師器	三	7.90	1.55	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 銀いユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色 外：10YR8/2 反白色	褐 雲母含む	良
141	SXI	土師器	三	-	1.35	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 銀いユビオサエ 内縁 ナデ	内：2.5YR7/2 反白色 外：2.5YR7/2 反白色	褐 細かい長石、雲母含む	良
142	SXI	土師器	三	8.20	1.50	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：2.5YR7/2 反黄色 外：2.5YR7/2 反黄色	やや褐 1m以下雲母や多く含む	良
143	SXI	土師器	三	8.30	1.35	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・工具ナデ 内縁 ナデ	内：10YR6/1 棕褐色 外：10YR7/2 にぶい黄褐色	褐 0.5m以下の雲母含む	良
144	SXI	土師器	三	8.60	1.65	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ユビオサエ後ナデ	内：10YR7/1 反白色 外：10YR7/3 にぶい黄褐色	褐 細かい長石、雲母含む	良
145	SXI	土師器	三	8.15	1.60	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 銀いユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR8/2 反白色 外：10YR8/2 反白色	褐 細かい赤色粒、雲母含む	良
146	SXI	土師器	三	7.70	1.35	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：SYR8/4 にぶい褐色 外：SYR7/4 にぶい褐色	褐 細かい長石、雲母含む	良
147	SXI	土師器	三	8.15	1.60	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色 外：2.5YR7/1 反白色	褐 細かい雲母含む	良
148	SXI	土師器	三	8.10	1.55	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR8/2 反白色 外：10YR7/1 にぶい黄褐色	褐 細かい雲母含む	良
149	SXI	土師器	三	7.65	1.40	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色 外：10YR7/1 反白色	褐 雲母含む	良
150	SXI	土師器	三	8.15	1.90	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/3 にぶい黄褐色 外：10YR7/3 にぶい黄褐色	やや褐 0.5m以下雲母少含む	良
151	SXI	土師器	三	8.00	1.70	-	3/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：7 SYR8/3 淡褐色 外：7 SYR8/3 淡黃褐色	やや褐 雲母含む	良
152	SXI	土師器	三	7.80	1.40	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：2.5YR7/1 反白色 外：2.5YR7/1 反白色	褐 細かい雲母含む	良
153	SXI	土師器	三	8.10	1.65	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色 外：10YR7/2 にぶい黄褐色	褐 0.5m以下の長石、石英、雲母含む	良
154	SXI	土師器	三	8.30	1.90	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：2.5YR8/2 反白色 外：2.5YR8/2 反白色	褐 0.5m以下長石、石英、雲母含む	良
155	SXI	土師器	三	8.00	1.60	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・指標柱 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色 外：10YR7/2 にぶい黄褐色	やや褐 0.5m以下の長石、石英、雲母含む	良
156	SXI	土師器	三	8.25	1.50	-	完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：7 SYR8/2 反白色 外：7 SYR8/2 反白色	やや褐 1m以下の石英、チャート、雲母含む	良

表7 遺物観察表 (6)

番号	種類名	種別	種類	生長 (cm)			生存率	特徴	色調	地土	性状
				口径	高さ	底幅					
157	SXI	土師器	三	8.00	1.90	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：SYR7/4 外：SYR7/3 にぶい褐色	やや密 0.1m程茎葉少量含む	良
158	SXI	土師器	三	7.90	1.60	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：7.SYR7/2 外：10YR7/2 にぶい褐色	やや密 1m以下茎葉多く含む	良
159	SXI	土師器	三	8.20	1.40	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 外：10YR7/3 にぶい黄褐色	密 細かい茎葉含む	良
160	SXI	土師器	三	8.00	1.70	-	ほぼ完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：7.SYR7/2 外：7.SYR7/3 明褐色	やや密 0.1m以下茎葉含む	やや良
161	SXI	土師器	三	8.00	1.50	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 外：10YR7/2 にぶい黄褐色	小や密 1m程赤色斑わざかに。 0.1m以下茎葉多く含む	良
162	SXI	土師器	三	7.80	1.70	-	2/3	口縁 ヨコナデ 外縁 離減 内縁 ナデ	内：SYR7/4 にぶい褐色	やや密 0.5m以下茎葉多く。0.5 m程糞石わざかに含む	不良
163	SXI	土師器	三	7.80	1.35	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 外：10YR7/2 にぶい黄褐色	密 細かい茎葉含む	良
164	SXI	土師器	三	7.45	1.60	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色	やや密	良
165	SXI	土師器	三	8.60	1.20	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：2.SYR7/2 灰白色 外：2.SYR7/1 灰白色	密 0.1m程茎葉やや多く含む	良
166	SXI	土師器	三	8.60	1.40	-	ほぼ完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：7.SYR7/2 明褐色	小や密 0.1m以下茎葉わざか に含む	やや良
167	SXI	土師器	三	8.30	1.55	-	ほぼ完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ - ナデ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 灰白色 外：10YR7/2 灰白色	やや密 茎葉含む	やや良
168	SXI	土師器	三	8.75	1.10	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色	やや密 1m以下茎葉やや多く含む	良
169	SXI	土師器	三	8.60	1.50	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内：10YR7/2 灰白色 外：10YR7/2 淡黃褐色	小や密 細かなチャート。茎葉含 む	良
170	SXI	土師器	三	8.20	1.50	-	1/2	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 灰白色 外：2.SYR7/1 灰白色	密 0.1m程茎葉やや多く含む	良
171	SXI	土師器	三	8.55	1.25	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 灰白色 外：10YR7/2 灰白色	密 1m以下赤色斑少、0.5m以 下茎葉やや多く含む	良
172	SXI	土師器	三	8.30	1.30	-	ほぼ完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：2.SYR7/1 灰白色 外：2.SYR7/2 灰白色	密 0.1m程茎葉多く含む	良
173	SXI	土師器	三	8.40	1.60	-	ほぼ完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 不調整 内縁 ナデ	内：2.SYR7/1 灰白色 外：2.SYR7/2 灰褐色	やや密 1m以下茎葉多く含む	良
174	SXI	土師器	三	8.30	1.40	-	ほぼ完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/3 にぶい褐色 外：7.SYR7/2 にぶい褐色	やや密 1m以下長石、地盤な茎 葉含む	良
175	SXI	土師器	三	8.40	1.40	-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 にぶい黄褐色	小や密 0.1m程茎葉やや多く含 む	やや良
176	SXI	土師器	三	7.85	1.60	-	ほぼ完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ - ナデ 内縁 ナデ	内：SYR7/2 灰白色 外：SYR7/1 灰白色	密 1m以下茎葉多く含む	やや良
177	SXI	土師器	三	7.75		-	完熟	口縁 ヨコナデ 外縁 一段ヨコナデ - 不調整 内縁 ナデ	内：10YR7/2 灰白色 外：10YR7/2 灰白色	密 1m以下茎葉やや多く含む	良
178	SXI	白磁	板	(16.20)	6.00	(7.00)	1/2	外縁 施釉 薄胎 内縁 施釉 薄胎	内：SYT7/2 灰白色 外：SYT7/1 灰白色	細密	良
179	SXI	白磁	板	(16.80)	(2.70)	-	口縁部~ 小片	外縁 施釉 内縁 施釉	内：10YR7/1 灰白色 外：10YR7/1 灰白色	細密	良
180	SXI	白磁	板	(16.40)	(3.00)	-	口縁部~ 小片	外縁 施釉 薄胎 内縁 施釉 薄胎	内：SYR7/2 灰白色 外：SYR7/1 灰白色	細密	良
181	SXI	白磁	板	(14.80)	(3.60)	-	口縁部~ 小片	外縁 施釉 薄胎 内縁 施釉 薄胎	内：SYR7/2 灰白色 外：SYR7/2 灰白色 内：SYR7/1 灰白色	密 細かい長石含む	良
182	SXI	白磁	板	(13.20)	(2.50)	-	口縁部~ 小片	外縁 施釉 薄胎 内縁 施釉 薄胎	内：SYR7/2 灰白色 外：SYR7/2 灰白色 内：SYR7/1 灰白色	細密	良

表 8 遺物観察表 (7)

番号	遺物名	種別	特徴	測量 (cm)			測定者	特徴	色調	地土	性質
				口径	断面	底面					
183	SXI	白磁	板	(14.00)	(3.30)	-	U/12	外面：施釉 内面：施釉	内：7.5YB/1 外：7.5YB/1 断：N/0 底：白色	細緻	良
184	SXI	白磁	板	-	(3.40)	6.60	底部1/2	外面：施釉・回転ケズリ 内面：施釉	内：7.5YB/1 外：7.5YB/1 断：N/0 底：白色	細密	良
185	SXI	白磁	板	-	(2.65)	(5.80)	1/3	外面：施釉・露治 内面：施釉	内：SYB/1 外：SYB/1 断：N/0 底：白色	密	良
186	SXI	白磁	板	-	(2.50)	(6.10)	1/2	外面：施釉・露治 内面：施釉	内：7.5YB/1 外：7.5YB/1 断：N/0 底：白色	細緻	良
187	SXI	白磁	板	-	(2.20)	(7.00)	底部1/4	外面：施釉・露治 内面：施釉	内：SYB/2 外：SYB/2 断：N/0 底：白色	底 0.5m以下の黑色粒含む	良
188	SXI	青磁	板	(15.40)	(3.00)	-	口縁部～ 小片	外面：施釉 内面：施釉・継目	内：10YR6/2 外：10YR6/2 断：N/0 底：白色	細密	良
189	SXI	青磁	板	(15.20)	(3.25)	-	口縁部～ 小片	外面：施釉・継目弁文 内面：施釉	内：5GY/1 外：5GY/1 断：N/0 底：白色	底 1mm以下の長石含む	良
190	SXI	青磁	板	(15.00)	(2.80)	-	口縁部～ 小片	外面：施釉・継目一条 内面：施釉・蓮花文	内：10YR6/2 外：10YR6/2 断：N/0 底：白色	密	良
191	SXI	白磁	板	-	(5.15)	(5.70)	高台部～ 底部小片	外面：施釉・ケズリ 内面：施釉	内：5YR7/1 外：5YR7/1 断：N/0 底：白色	細密	良
192	SXI	済意器	片口鉢	(25.60)	(7.90)	-	口縁部～ 体部小片	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内：2.5Y/1 外：5YR7/1 断：N/0 底：白色	少や粗 4mm以下長石。チャート。黑色粒含む	良
193	SXI	済意器	片口鉢	-	(6.40)	-	底部～ 体部小片	外面：回転ナデ・ナデ・回転系切痕 内面：回転ナデ	内：N/0 外：N/0 断：N/0 底：灰色	少や粗 2mm以下の長石多く。1mm以下長石わずかに含む	良
194	SXI	石製品	石鍋	(19.30)	(6.55)	(24.00)	口～側部 内面	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラケズリ	内：N/0 外：N/0 断：N/0 底：灰色	-	-
195	SXI	瓦器	盤	-	(4.50)	-	口縁部～ 小片	口縁：ヨコナデ 内面：ユビオサエ	内：N/0 外：N/0 断：N/0 底：灰色	少や粗	良
196	SXI	土師器	鍋	(36.90)	(19.30)	-	3/4	口縁 内面：ヨコナデ 外面：ハケ	内：7.5YR7/3 内：7.5YR7/3 にぶい褐色	少や粗 2mm以下の長石。石英。チャート含む	良
197	SXI	土師器	鍋	(36.40)	(6.20)	-	口縁部～ 小片	口縁：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ ハケ・ナデ	内：2.5Y/2 内：N/0 外：N/0 底：黑色	少や粗 5mm以下の長石。石英。チャート含む	良
198	SXI	土師器	土釜	(23.30)	(3.60)	-	口縁部～ 小片	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ・ナデ 外面：ナデユビオサエ	内：10YR7/1 内：10YR7/2 内：10YR7/2 にぶい褐色	少や粗 0.5m以下の長石。石英。赤色粒含む	良
199	SXI	瓦器	板	14.30	4.40	3.35	ほぼ完形	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ・ナデ 外面：ナデユビオサエ	内：N/0 外：N/0 断：N/0 底：白色	細緻	良
200	SXI	瓦器	板	(13.50)	4.00	(3.30)	1/3	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ・ナデ 外面：ナデユビオサエ	内：N/0 外：N/0 断：N/0 底：白色	堅密	良
201	SXI	土師器	大皿	(12.60)	2.30	-	1/4	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ後工具ナデ 外面：ナデ	内：2.5YB/2 内：2.5YB/2 底：反白色	底 0.5m以下の雲母含む	良
202	SXI	土師器	皿	8.15	1.35	-	2/3	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ 外面：ナデ	内：7.5YR7/3 内：7.5YR7/3 にぶい褐色	底 細かい石英。雲母含む	良
203	SXI	土師器	皿	7.65	1.55	-	完形	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ 外面：ナデ	内：2.5YB/2 内：2.5YB/1 底：反白色	底 細かい雲母含む	良
204	SXI	土師器	鍋	(31.50)	(6.90)	-	口縁部～ 体部小片	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ・ハケ 外面：ナデ	内：7.5YR7/2 内：7.5YR7/2 底：反白色	少や粗 細かい長石含む	良
205	SXI	土師器	鍋	(21.20)	(5.70)	-	口縁部～ 小片	口縁：ヨコナデ 内面：ナデ 外面：ハケ	内：2.5YB/1 内：2.5YB/2 内：2.5YB/1 底：反白色	少や粗 1m以下の長石。石英。黒色斑。赤色粒含む	良
206	SXI	陶器	耳壺	(10.90)	(9.70)	-	小片	外面：泥縫二条・迷状泥縫一条 内面：ナデ	内：10YR/1 内：10YR/1 内：10YR/1 底：反白色	堅密	良
207	SXI	土師器	羽墨	(22.70)	(9.75)	(46.00)	口縁部～ 小片	口縁：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 外面：ハケ伏サエ	内：7.5YR7/3 内：7.5YR7/3 内：7.5YR7/1 底：黑色	少や粗 1m以下の長石。石英含む	やや良
208	SXI	瓦器	板	14.00	3.75	3.90	ほぼ完形	口縁：ヨコナデ 内面：ナデユビオサエ 外面：ナデユヘラミキ	内：10YR7/1 内：10YR7/2 内：10YR7/1 底：反白色	堅密	やや良

表 9 遺物観察表 (8)

番号	遺物名	種別	基盤	測量 (cm)			測定車	特徴	色調	地土	性質
				口径	標高	底幅					
209	SK7	瓦器	板	13.65	3.90	3.30	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: 黒/0 反白色 外: 黒/0 反白色 断: 黒/0 反白色	堅密	良
210	SK7	瓦器	板	14.20	3.80	3.75	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ユビオサエ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: 2.5Y7/1 反白色 外: 2.5Y7/1 反白色 断: 2.5Y7/2 反黄色	堅密	やや良
211	SK7	瓦器	板	13.80	4.00	4.15	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ユビオサエ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: 黑/0 反白色 外: 黑/0 反白色 断: 黑/0 反白色	堅密	良
212	SK7	瓦器	板	13.50	3.60	3.50	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・ヨコナデ・ナデ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: 黑/0 反白色 外: 黑/0 反白色	-	良
213	SK7	土師器	大皿	12.80	3.00	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/1 反白色 外: 2.5Y7/1 反白色	密 0.5mm以下の薙毛含む	良
214	SK7	土師器	大皿	11.80	2.60	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ヨビオサエ 内縁 ユビオサエ後ナデ	内: 2.5Y7/1 反白色 外: 2.5Y7/1 反白色	密 1mm以下の長石、赤色粒、細かい薙毛含む	良
215	SK7	土師器	皿	8.30	1.50	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/1 反白色 外: 2.5Y7/2 反黄色	密 0.5mm以下の長石、薙毛含む	良
216	SK7	土師器	皿	7.90	1.55	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 反白色 外: 10YR7/2 反白色 断: 10YR7/1 稲灰色	密 1mm以下の長石、赤色粒、黑色粒、細かい薙毛含む	良
217	SK7	土師器	皿	8.40	1.40	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 にぶい黄褐色 外: 2.5Y7/2 反黄色	密 1mm以下の長石、細かい薙毛含む	良
218	SK7	土師器	皿	8.00	1.55	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/1 反白色 外: 2.5Y7/1 反白色	密 1mm以下の長石、細かい薙毛含む	良
219	SK7	土師器	皿	7.90	1.30	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ後ナデ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/1 反白色 外: 2.5Y7/2 反黄色	密 1mm以下の長石、赤色粒、細かい薙毛含む	良
220	SK7	土師器	皿	8.40	1.25	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ後工具ナデ	内: 9Y7/1 反白色 外: 9Y7/1 反白色	密 0.5mm以下の長石、薙毛含む	良
221	SK7	土師器	皿	8.20	1.45	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/2 反黄色 外: 2.5Y7/2 反黄色	密 0.5mm以下の長石、石英、薙毛含む	良
222	SK7	土師器	皿	8.20	1.45	-	完斜	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 2.5Y7/2 反白色 外: 2.5Y7/2 反黄色 断: 2.5Y7/1 黄灰色	密 1mm以下の長石、細かい薙毛含む	良
223	SK7	土師器	皿	8.20	1.25	-	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ後工具ナデ 内縁 ナデ	内: 10YR7/2 にぶい黄褐色 外: 10YR7/2 にぶい黄褐色	密 0.5mm以下の薙毛含む	良
224	SK8	瓦器	板	(14.30)	(2.95)	-	口縁部+体部小片	口縁 ヨコナデ ナデ後ヘラミガキ ナデ後ヘラミガキ	内: 黑/0 塗装色 外: 黑/0 塗装色 断: 10Y7/1 反白色	堅密	良
225	SK8	土師器	皿	(10.00)	(1.30)	-	口縁部+小片	口縁 ヨコナデ ナデ後ユビオサエ ナデ	内: 10YR7/2 反白色 外: 10YR7/2 反白色	密 極端な長石含む	良
226	SK8	瓦器	板	(14.20)	3.90	(2.10)	1/3	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ後ユビオサエ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: 黑/0 反白色 外: 黑/0 反白色 断: 黑/0 反白色	堅密	良
227	SK8	土師器	皿	(7.80)	(1.10)	-	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ヨコナデ	内: 10YR7/2 にぶい黄褐色 外: 10YR7/2 にぶい黄褐色 断: 10YR7/2 反黄色	密 1mm以下の長石、細かい薙毛含む	良
228	SK9	瓦器	板	(14.00)	(4.10)	-	口縁部+体部小片	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ 内縁 ヘラミガキ・ユビオサエ	内: 黑/0 反白色 外: 黑/0 反白色 断: 2.5Y7/1 反白色	堅密	良
229	SK9	瓦器	板	(13.80)	(3.40)	-	小片	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ・ヘラミガキ 内縁 ヘラミガキ	内: 黑/0 反色、10YR8/1 反白色 外: 黑/0 反色、10YR8/1 反白色 断: 10YR7/1 反白色	密 細かい薙毛含む	良
230	SK9	瓦器	板	-	(2.45)	(5.10)	1/8	外縁 ナデ後ヘラミガキ・ヨコナデ 内縁 ヨコナデ・ヨコナデ 基盤部 小片	内: 黑/0 反白色 外: 黑/0 反白色 断: N7/0 反白色	堅密	やや粗 0.5mm以下の薙毛、長石含む
231	SK9	土師器	板	-	(1.60)	(6.60)	高台部 小片	外縁 ナデ・ヨコナデ 内縁 ナデ・ヨコナデ	内: 7.5YR8/1 反白色 外: 7.5YR8/1 反白色	やや粗 0.5mm以下の薙毛、長石含む	良
232	SK9	土師器	皿	(8.80)	1.15	(6.40)	1/4	口縁 ヨコナデ 外縁 ナデ・ユビオサエ 内縁 ナデ	内: 5Y8/1 反白色 外: 5Y8/1 反白色	密 0.5mm以下の薙毛、長石含む	良
233	SK9	瓦器	板	(16.60)	(4.75)	-	口縁部+体部小片	口縁 ヨコナデ 外縁 ヘラミガキ・ヘラケヅリ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: 黑/0 塗装色 外: 黑/0 塗装色 断: 10Y7/1 反白色	堅密 0.5mm以下の長石含む	良
234	SK9	瓦器	板	(15.00)	(3.80)	-	口縁部+体部小片	口縁 ヨコナデ 外縁 ユビオサエ 内縁 ナデ後ヘラミガキ	内: 黑/0 反白色 外: 黑/0 反白色 断: 10Y7/1 反白色	堅密 0.5mm以下の長石含む	良

表 10 遺物観察表 (9)

番号	遺物名	種別	特徴	測量 (cm)			測定者	特徴	色調	地土	状況		
				口径	周長	底面							
235	NR2	土師器	三	(13.60)	(1.95)	-	口縁部～ 小片	口縁：ヨコナデ 外面：ユビオサエ 内面：ヨコナデ	内：2.5Y7/1 外：2.5Y7/1 底白	灰 灰白色 含む	灰 1m以下の長石。細かい雲母 含む	良	
236	NR2	土師器	三	9.30	2.05	-	往復形	口縁：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：ナデ	内：10Y8/2 外：10Y8/2 底白	灰 灰白色 含む	灰 灰白色 含む	良	
237	NR2	土師器	三	9.10	1.70	-	完形	口縁部：ヨコナデ 外面：ユビオサエ 内面：ナデ	内：7.5Y8.1 外：7.5Y8.2 底白	灰 灰白色 含む	灰 灰白色 含む	良	
238	NR2	白磁	瓶	-	(2.10)	5.65	1/2	外面部：施釉・露胎 内面部：施釉	内：10Y7/1 外：10Y7/1 底白	灰 灰白色 含む	灰 灰白色 含む	良	
239	NR2	瓦器	羽墨	(22.40)	(9.50)	-	口縁部～ 全体小片	口縁：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：ハケ ナデ	内：N7/0 外：N7/0 断：N7/0 底白	灰 灰白色 含む	灰 灰白色 含む	良	
240	NR2	淡墨器	高环	-	(3.40)	(8.40)	脚部 1/4	外面部：回転ナデ 内面部：回転ナデ	内：N7/0 外：N7/0 断：N7/0 底白	灰 灰白色 含む	灰 1m以下の長石。細かい雲母 含む	良	
241	NR2	淡墨器	高环	-	(3.75)	(8.20)	脚部 1/3	外面部：回転ナデ 内面部：回転ナデ	内：5Y6/1 外：5Y6/2 断：5Y6/0 底白	灰 灰白色 含む	灰 1m以下の長石。石英含む	良	
242	NR5	瓦器	板	(15.00)	(5.20)	-	口縁部～ 全体小片	口縁：ヨコナデ 外面：ユビオサエ後へラミガキ 内面：ヘラミガキ	内：N5/0 外：N5/0 断：N5/0 底白	灰 灰白色 含む	灰	良	
243	NR5	白磁	瓶	(15.20)	(3.70)	-	口縁部～ 全体小片	口縁：施釉 全体：施釉・團練一条 内面：施釉	内：7.5Y7/2 外：7.5Y7/2 断：N5/0 底白	灰 灰白色 含む	灰 灰白色 含む	良	
244	NR5	白磁	瓶	-	(3.35)	5.60	1/2	外面部：施釉・露胎 内面部：施釉・團練一条	内：5Y6/1 外：5Y6/1 底白	灰 灰白色 含む	灰 0.5mの長石含む	良	
245	S06	黒色土器	印模	板	(15.20)	(2.10)	-	口縁部～ 小片	口縁：ヨコナデ 外面：ヘラミガキ 内面：沈鍛・条・ナデ後へラミガキ	内：N5/0 外：N5/0 断：N5/0 底白	灰 灰白色 含む	灰	良
246	S06	瓦器	板	(15.30)	(4.70)	-	口縁部～ 全体1/4	口縁：ヨコナデ 外面：ヘラミガキ 内面：沈鍛・条・ナデ後へラミガキ	内：N5/0 外：N5/0 断：N7/1 底白	灰 灰白色 含む	灰 灰白色 含む	良	
247	S06	瓦器	板	(12.80)	(3.90)	-	口縁部～ 全体小片	口縁：ヨコナデ 外面：ユビオサエ 内面：ヘラミガキ	内：N5/0 外：N5/0 断：N5/0 底白	灰 灰白色 含む	灰 細かい長石、雲母含む	良	
248	S06	瓦器	板	-	(1.40)	4.45	高台 3/4	外面部：ナデ・ヨコナデ 内面：ナデヘラミガキ	内：N5/0 外：N5/0 断：N5/0 底白	灰 灰白色 含む	灰 やや堅穢	良	
249	S06	常滑	壺	(28.40)	(7.35)	-	1/4	外面部：回転ナデ・ケズリ 内面：回転ナデ	内：N5/0 外：N5/0 断：N5/0 底白	灰 灰白色 含む	灰 やや細 2m以下の長石。石英含む	良	
250	S06	淡墨器	壺	(24.30)	(5.90)	-	1/8	外面部：回転ナデ 内面：回転ナデ	内：N5/0 外：N5/0 断：7.5M5.1 明褐色	灰 灰白色 含む	灰 1m以下の長石含む	良	
251	S06	白磁	板	(15.60)	(3.85)	-	口縁部～ 全体上位 小片	口縁部：施釉 外面部：施釉 内面：施釉	内：2.5Y8/1 外：2.5Y8/1 底白	灰 灰白色 含む	灰 灰白色 含む	良	
252	S06	白磁	板	-	(3.25)	5.60	高台部 壳存	外面部：施釉・露胎 内面：施釉	内：5Y8/1 外：5Y8/1 底白	灰 灰白色 含む	灰 0.5m以下の長石含む	良	
253	S06	陶器	壺	(7.80)	(2.75)	-	口縁部～ 小片	口縁部：施釉 外面部：施釉	内：10Y8/1 外：10Y8/1 断：5Y7/1 底白	灰 灰白色 含む	灰 1m以下の長石少量含む	良	
254	SX1	木製品	円形曲物	縦10.30 高2.20	厚0.50	完形	1面所方彌丸・針書縫刺	-	-	-	-	-	
255	SX3	木製品	用途不明	縦8.60	横4.50	厚0.50	完形	針結合物 底部外面部：墨書き	-	-	-	-	

表 11 遺物観察表 (10)

写 真 図 版



調査地遠景（東から）



写真1 西壁土層断面（北東から）



写真2 SX1 上層 土器出土状況（西から）



写真3 SX1 上層 土器出土状況（南から）



写真4 SX1 上層 土器出土状況（南西から）



写真5 SX1 上層 土器出土状況（南東から）



写真 6 SX1 下層 土器出土状況（南西から）



写真 7 SX1 下層 土器出土状況（南西から）



写真 8 SX1 下層 土器出土状況（南西から）



写真 9 SD6 完掘状況（南から）



写真 10 SK3 風倒木痕検出状況（東から）



写真 11 SK3 完掘状況（北東から）



写真 12 SK4 土層断面（西から）



写真 13 SK4 植出状況（西から）



写真 14 SK4 完掘状況（西から）



写真 15 SK7 土層断面（南から）

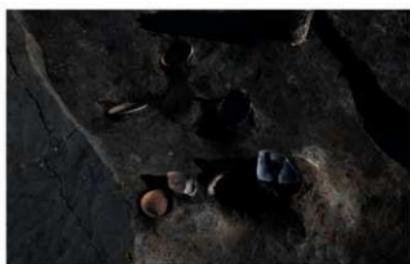


写真 16 SK7 土器出土状況（西から）



写真 17 SK7 下層 土器出土状況（南西から）



写真 18 SK7 完掘状況（南から）



写真 19 SK8 完掘状況（南から）



写真 20 SK9 土層断面（南から）



写真 21 SK9 完掘状況（南から）



写真 22 NR2 噴砂痕検出状況（東から）



写真 24 NR2 完掘状況（北から）

写真 23 NR2 噴砂痕検出状況（北から）



写真 25 NR2 断面（西から）



写真 26 調査状況



写真 27 遺構完掘状況（北から）



写真 28 調査区全景（南から）







25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118



119



120





133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



184



185





199



200



201



202



203



208



204



205



206



207



209



210



211



212



213



214



215



216



217



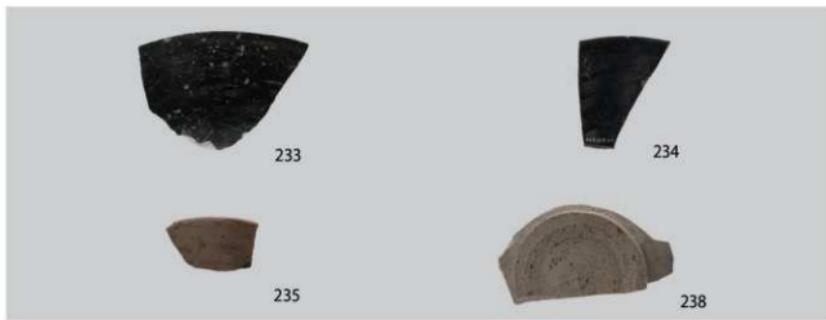
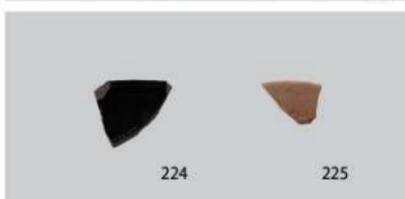
218



219



220





239



241



236



237



242



243



244



245



246



247



248



249



250



251



252



253



W1



W2

報告書抄録

門真市埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集

西三荘遺跡Ⅱ

令和5（2023）年8月10日

編集・発行 門真市 市民文化部 生涯学習課 歴史資料館

〒571-0041 大阪府門真市柳町11番1号

TEL06-6908-8840

印刷 株式会社近畿印刷センター

